

平成27年第2回那須烏山市議会3月定例会（第6日）

平成27年3月11日（水）

開議 午前10時00分

散会 午後 4時54分

◎出席議員（16名）

1番	相馬正典	2番	小堀道和
3番	滝口貴史	4番	矢板清枝
5番	望月千登勢	6番	田島信二
7番	川俣純子	8番	渋井由放
9番	久保居光一郎	10番	渡辺健寿
11番	高德正治	12番	佐藤昇市
13番	沼田邦彦	15番	中山五男
17番	小森幸雄	18番	平塚英教

◎欠席議員（2名）

14番	樋山隆四郎
16番	高田悦男

◎説明のため出席した者の職氏名

市長	大谷範雄
副市長	國井豊
教育長	池澤進
会計管理者兼会計課長	羽石徳雄
総合政策課長	坂本正一
秘書政策室長	福田光宏
総務課長	清水敏夫
税務課長	小口久男
市民課長	大野治樹
福祉事務所長兼健康福祉課長	樋山洋平
こども課長	青木敏
農政課長	堀江豊水
商工観光課長	堀江功一

環境課長	栗 友 二
都市建設課長	高 田 喜一郎
上下水道課長	大 谷 頼 正
学校教育課長	網 野 榮
生涯学習課長	佐 藤 新 一
文化振興課長	両 方 裕

◎事務局職員出席者

事務局長	平 山 隆
書 記	大 鐘 智 夫
書 記	塩野目 庸 子

○議事日程

日程 第 1 (議案第1号～議案第9号) 平成27年度那須烏山市一般会計・特別会計・水道事業会計予算について ※質疑～委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

[午前10時00分開議]

○議長（佐藤昇市） 皆さん、おはようございます。

平成27年第2回3月定例会第6日目予算質疑です。本日も議会傍聴に足を運んでいただきまして、大変ありがとうございます。ただいま出席している議員は16名です。14番樋山隆四郎議員、16番高田悦男から欠席の通知がありました。定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりです。

◎日程第1 （議案第1号～議案第9号）平成27年度那須烏山市一般会計予算・特別会計予算・事業会計予算について

○議長（佐藤昇市） 日程第1 平成27年度那須烏山市一般会計予算・特別会計予算・事業会計予算、議案第1号から議案第9号までについてを議題とします。

本案については、去る3月3日の本会議において、市長の提案理由の説明が終了しておりますので、直ちに質疑に入ります。なお、所管の委員会に関する事項については、委員会の審査において質疑されるようお願いいたします。

それでは、質疑等ありましたら、よろしくようお願いいたします。

1番相馬正典議員。

○1番（相馬正典） 私、まだ1年になりません。それで、決算書と予算書を見ているんですが、なかなか読みとくのが非常に苦勞しているところなので、何か間違い等がございましたら、御訂正をいただければと思います。

最初に29ページ、2款総務費1項総務管理費10目の情報政策推進費についてちょっと伺います。予算が1億2,958万5,000円とございます。昨年が1億655万9,000円となっております。2,300万円の増となっております。内容は多分ネットワークの構築の関係かなというふうに思うんですけども、昨年の決算書によりますと、9,680万円というふうにあります。これによりますと、3,270万円ほど多くなっています。増額の要因というのが何か原因があるのかなと思ひまして質問をします。

それから、55ページでございます。10款の教育費1教育総務費1目事務局費、教育情報ネットワーク整備事業費、これも5,944万3,000円を計上しております。昨年在決算書によりますと、同じ事業名で1,693万円というふうにあります。これによりますと4,250万円ほどの増額というふうになりますけれども、この要因はやはり何でしょうか。

5項目でございます。3番目でございます。72ページでございます。債務負担行為の調書と

いう中に、小中学校スクールバス運行业務委託1億7,450万円、これ、来年度より実施するスクールバスのことだと思いますが、限度額が1億7,450万円平成27年から平成31年度というふうになっておりますが、内訳等について詳細がわかったら教えていただきたいと思ひます。

それから4番目、86ページ、消防費でございます。操法大会交付金というのがございまして、本年度の予算はゼロ円ということになっていまして、昨年は322万5,000円をここへ計上してありました。その分は別な項目で載っているのか。それともないものなのか、ちょっとお伺いしたいと思ひます。

それから5番目、最後ですが、歳入のところの105ページ、8款の共同事業交付金、この項目に対して合計で本年度の予算が8億4,516万5,000円、昨年が4億3,734万6,000円、比較でいきますと4億781万9,000円というふうになっておりまして、それに相対して歳出がありまして、112ページに、同じ共同事業拠出金ということで、約同額の8億6,258万3,000円が計上されております。申しわけありません、この共同事業拠出金、保険財政共同安定化事業拠出金というものについて教えていただければと思ひます。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） それでは、ただいま総合政策課関連の情報政策推進費についてのお尋ねがございましたのでお答えさせていただきます。

約1億2,900万円ということですが、この情報政策推進費の中には、現在、市のほうで運用しております業務系、情報系のネットワークのシステムの管理運営、それから、こちらの中には市民課のほうで所管しております基幹系システムの管理運営費6,900万円ほど入っておりますけれども、主な増の要因といたしましては、現在、国のほうで進めておりますマイナンバー制度の導入に伴う基幹系システムの改修費が約2,800万円ほど入っておりますけれども、主な増の要因は、こちらのマイナンバー制度の導入に伴う経費ということでございます。

○議長（佐藤昇市） 網野学校教育長。

○学校教育課長（網野 榮） ただいま御質問のありました55ページの教育情報ネットワーク整備事業5,944万3,000円の御質問がございました。こちらの内容でございます。まず、結論から申し上げますと、大幅に上がった理由につきましては、これまで整備しておりました機器がちょうど5年目を迎えて、総入れかえの時期でございましたので、新たに機器の入れかえ等があった関係上、大幅に増えているというのが大きな理由でございます。

内容を申し上げますと、まず、リース料関係ですね、一番大きいのはクライアントサーバー、

それから学校のサーバー、いわゆる学校のパソコン教室とか教職員の先生方が使うパソコン等々、いわゆるクライアントと申しますが、クライアントが457台、学校のサーバーが8台ございます。そういった関係でクライアント、サーバー等が3,529万円、これが一番大きくなってございます。それ以外に昨年度から導入いたしました電子黒板の関係の経費、リース料等々が重立ったものでございます。

もう一つは、デジタル教科書ということで、教科書が4年間使用するものでございますが、来年度小学校の教科書が改訂となります。その関係でデジタル教科書、小学校分5校分、購入いたします。405万円ということでございます。

それ以外に学校教育ネットワークシステムがございまして。これは、なすからネットということで独自のネットワークを組んでおりますが、こちらの補修、点検業務に関して、こちらが346万6,000円ということで、そういった関係がございまして、今回、昨年と比べまして大幅に増えたという状況でございます。

続きまして、72ページでございます。72ページの小中学校のスクールバス運行業務委託ということで債務負担行為の設定分ですね。これは今回、補正予算で議決を頂戴したものが、新たにこちらに加わって継続で起債になるというものでございます。

平成27年度から平成31年度までということで、5カ年で1億7,450万円という債務負担のいわゆる限度額の設定をしたところでございます。こちらはスクールバスを導入することで、御審議を頂戴した分で、5カ年で1億7,450万円でございます。単年度で3,490万円、5カ年で1億7,450万円ということになりますが、こちらにつきましては、ほぼ入札等が終わりまして確定してございます。結果的には、南那須中学校、今度新しくなる南那須中学校ですね、こちらに4台のスクールバスを配置いたします。

それから、烏山中学校ですね。こちらに2台ということで、6台ということで合計で2,226万7,968円ということで、ほぼ確定をしております。よって、債務負担のほうは3,490万円の枠を設定しております、単年度で。最終的には2,226万8,000円、ちょっと端数を丸めますが、ということで推移する予定でございますので、5カ年で1億7,400万円を想定しておりましたが、実質的にはこれの単純計算で5カ年いきますと1億1,000万円くらいで推移するかなということでございます。

それから、今回の理由としましては、スクールバス導入でございますが、小学校が従来どおり2キロでございます。あわせてまして中学校のほうがこれまで利用対象を6キロとしておりましたけれども、そちらを御審議頂戴いたしまして4キロに改めたという関係上、烏山中学校のほうに2台増便ということでなった経過でございます。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 86ページ、操法大会交付金、平成27年度はゼロになっております。この操法大会につきましては、県の操法大会が2年に一度開催されるのに伴いまして支部の大会、市の大会ということで、それらの開催に要する経費の交付金でございます。平成26年度操法大会開催しています。来年は開催しませんので予算措置はゼロとさせていただきます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 大野市民課長。

○市民課長（大野治樹） それでは、私どものほうでは105ページ、112ページの国民健康保険の特別会計についての御質問にお答えしたいと思います。

まず、112ページの歳出のほうから先に説明をさせていただきたいと思います。この保険財政共同安定化事業拠出金というものでございますが、これは県内の各保険者ですね、県内全市町の国民健康保険の保険者が、共同でその年の医療費のかかる部分について、被保険者数であるとか、そういうもので国民健康保険連合会のほうで算出して拠出をしている事業でございます。その年の医療費の増減によって、県内の各保険者の保険料がその年で上がったったり下がったりしないように支え合う事業で広域的な共同事業となっております。

これは平成26年度までは、その事業の対象が1件30万円以上の医療費を対象としておりましたが、平成27年度からは全ての医療費を対象として、その共同事業を実施することになりましたので、その拠出額も増えて、レセプトの医療費が全てに該当するということになりましたので、拠出額が増額したということでございます。

歳入のほうですが、それぞれその療養費、その年の療養費、かかった分に対してその拠出額から県下の各保険者のほうに分配されるもので、今回、その拠出額の98%を歳入見込みということで計上したものでございます。そういうことで、昨年のお倍ぐらいの金額の計上となっております。

○議長（佐藤昇市） 1番相馬正典議員。

○1番（相馬正典） 大筋わかりました。総務の情報政策推進費及び教育費の教育情報ネットワーク整備事業費、合わせると1億8,900万円ほどになります。やはり巨額な今の時代の流れの中で、デジタル時代ですからやむを得ないと言えはやむを得ないとは思いますが、やはり慎重に縮減を少しでも図れるようお願いしたいと思います。その辺についてお伺いしたいと思います。

もう一つ、今、共同事業拠出金の中で、保険財政共同安定化事業拠出金というのがありましたけれども、この辺がちょっと抜けたのかなと思ったのもう一度お願いできれば。

○議長（佐藤昇市） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） 御指摘のように、情報化に関しましては、さまざまな国の制度改正等に伴って毎年システム改修等が出てまいります。そういったことで、予算が多額の予算になっているということですが、そういったシステムの導入については今後、長期継続契約等を利用して、少しでも維持管理、補修に係る経費を削減できるようなことを考えていきたいというふうに思っております。

○議長（佐藤昇市） 大野市民課長。

○市民課長（大野治樹） ただいま御説明申し上げたつもりだったんですが、説明がちょっと足りなくて申しわけございません。保険財政共同安定化事業拠出金と言いますものは、全ての医療費を対象に平成27年度から各市町村の保険者、県内ですと25市町の保険者がそれぞれお金を出し合って、保険のその年の医療費相当分のかかる部分について、それぞれ支え合う事業で、県の保険者の平成30年度の都道府県化をにらんで、全ての医療費を対象ということで、今回事業費が拡大されたことに伴いまして、去年の倍というような金額計上になったものでございます。平成26年度までは、1件30万円までだったものが、平成27年度から全ての医療費を対象に、その支え合う事業が拡大されたということでございます。

○議長（佐藤昇市） 1番相馬正典議員。

○1番（相馬正典） 了解しました。予算の縮減を少しでも図っていただければと思います。了解しました。ありがとうございました。

○議長（佐藤昇市） 4番矢板清枝議員。

○4番（矢板清枝） 私は本当に見方がわからないので、ただ質問という形でさせていただきます。

どのような内容かというのを伺いしたいと思います。35ページ、総務費監査委員費の130万5,000円というのがどのような内容なのか。

それから、47ページ、6の農林水産業費1の農業費の7地籍調査費で3,827万3,000円というのは、前年に比べると差額みたいなのがあるんですけども、この部分のどの地区で行っているのかということと、今後どのように進めるのかということを知りたいと思います。

それから、49ページの7の商工費の中の商工費で4の観光費の観光振興費というのがあるんですけども、これが1,305万4,000円ですね、これもどのような内容かということです。

それから、その中の同じ商工費の中の広域観光活性化事業費が142万4,000円、これもどのような内容かということと、その下のまちおこし推進費742万円、これもどのような内容なのか教えていただきたいと思います。

それから次の50ページ、これも同じ商工費なんですけれども、観光施設費で龍門の滝周辺施設管理費というのがあるんですけれども、これもどのような内容なのか教えていただきたいと思います。

それから、52ページ、8の土木費の河川費河川総務費の1,473万5,000円で、前年と比べると898万1,000円という差額があるんですけれども、これがどのような内容なのか、この分も教えていただきたいと思います。

それから、54ページの消防費の消防施設費というのがあるんですけれども、消防施設整備費で5,477万8,000円というのがどのような内容なのか、教えていただきたいと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 平山事務局長。

○事務局長（平山 隆） 矢板議員の御質問にお答えしたいと思います。監査委員運営費でございますが、監査委員2名の報酬、費用弁償が67万9,000円、職員旅費等18万4,000円、書籍追録代29万5,000円、郵送費6,000円、全国、関東、栃木県都市監査委員会費等13万1,000円、それから、監査委員交際費として1万円の計上でございますが、昨年度に比して9万8,000円ほど増加しておりますが、これは複雑化する監査委員業務に対応するため、職員の研修派遣を予定しております。それが7万3,000円のプラスとなっております。合わせて130万5,000円の予算でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 高田都市建設課長。

○都市建設課長（高田喜一郎） 47ページの地籍調査費なんですけど、これは南那須地区と烏山地区に分かれて、今2班で進めていますが、南那須地区が昭和49年から、烏山地区が昭和54年から実施しております。地籍調査は皆さんの宅地とか畑、田んぼなど土地を調査するわけなんですけど、地籍調査前の公図は明治時代につくられたものですので、面積などもかなり違います。それを正確にはかるためにやっております。

現在は南那須地区が大里地区、烏山地区が大木須地区で行っています。南那須地区は平成35年ごろ終わる予定なんですけど、烏山地区は烏山の南部というか、向田とか野上、神長あたりが残っています。市街地も残っています。かなり時間的にはかかるのではないかと。あと30年近くかかるのではないかと思います。南那須地区が終われば、その班も烏山地区に行けるものですから、もっとスピードは上がると思います。そのようなところです。

もう一つが、52ページの河川総務費なんですけど、これは県で実施しています事業に対する市の負担金です。これは神長地区の土砂災害特別警戒区域が、滝の駅の近くに烏山中学校のほ

うへ上っていく道路の北側のところにあるんですが、その急傾斜崩壊対策をやるための6,000万円の2割の負担金です。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 私のほうでは4点の内容について質問がありました。

まず、1点目の説明欄、観光振興費1,305万4,000円の内容ですが、まず、1つとして各観光振興費ということで負担金的なものが6件ありまして62万3,000円、負担金一覧表に載っていますが、そのほかに補助金として市の観光協会の補助金が1,175万円になっています。その2点でございます。

次に、広域観光活性化事業費142万4,000円でございますが、広域観光ということで各種広域的、東京等への旅費の市外イベント用で29万3,000円、それとこの中には10周年記念のイベント用のうちわをつくるということで、うちわ製作に43万2,000円、それと新規でとちぎテレビのとちぎ発！旅好き！という毎週木曜日に、U字工事が今やっていますね。あの番組を今回、つくるということでの予算が54万円。制作費に係る予算が54万円で、それによって県内で放送されるのが3回、それと関東6県へ1回放送されるのを含めての事業でございます。

次に、まちおこし推進費742万円でございますが、この内訳として、この中で山あげ祭を開催するにあたっての諸経費、交通整理とかシャトルバスとかレンタルトイレとかを入れているそういう事業で213万5,000円入っております、そのほかに19節の負担金の中に528万5,000円ありまして、その中に補助金として、いかんべ祭の事業費補助金が320万円、それとふるさと観光資源活性化推進事業費ということで、月次の梵天祭に8万5,000円、それと、一般質問も重なりますが、プロジェクションマッピングへの観光協会の交付金で200万円。最後に4点目の龍門ふるさと民芸館運営費560万4,000円は、13節でいう指定管理の委託料がそのうち483万5,000円、それと敷地が借地を借りていますのでその借地料が76万9,000円、以上そのようなことになっております。

○議長（佐藤昇市） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 54ページ、消防施設整備費の内容について御説明をさせていただきます。

まず、来年度消防自動車の更新を2台予定しております。それらに伴う予算が約2,300万円、ポンプ自動車が1分団4部、愛宕、金井でございます。また、小型ポンプにつきましては4分団3部、中山を予定しております。

続いて、消防車両の受令機でございますが、消防署全体でデジタル化ということで進めてお

ります。来年度中にデジタル化にしないと、消防署からの指令が聞こえなくなるということで、消防車両についております受令機44台分、これらを全てデジタル化に更新するもので約1,800万円事業費を計上させていただいております。

それと、烏山地区内のサイレン吹鳴を消防署から一斉に行うためのサイレン吹鳴システムにつきましては、リース契約で行いますが、219万1,000円ということで計上させていただいております。

それともう一つ、予算書の中にも入っているんですが、消防車庫の新築、改築工事につきましては、実は予定していたところが、地元のほうの意向がちょっと固まらなかったということで、1,000万円ほどで上川井の消防車両の更新とそれをあわせて考えていたわけなんです。これについては来年度はちょっと地元での対応ができないということになってしまいました。それらについては、今後、向田もありますし、消防車庫等の老朽化のところもありますので、地元の意向もくんで対応していきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 4番矢板清枝議員。

○4番（矢板清枝） わかりました。了解しました。

○議長（佐藤昇市） 5番望月千登勢議員。

○5番（望月千登勢） 私は社会教育のほうについて少しお聞きしたいと思っております。

59ページ、教育費社会教育総務費事業費の中におきます子供体験教室事業と若者交流事業費についてお伺いします。折にふれて、体験学習の重要性について生涯学習課の課長ともお話を続けてまいりました。その中で、社会教育事業費の子供体験教室事業費が、私ちょっと初めての質問なので、どちらかというと、予算概要のほうで調べさせていただいております。

子供体験教室事業費が400%の増加、それから、若者交流事業費のほうで85%の増加という形で予算のほうで提示されておりますが、その内容と今年度の活動の計画についてお聞きしたいと思っております。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 子供体験教室につきましては、烏山公民館等で実施している事業でございます。平成26年度、今年度につきましては、実施母体であります風の顔のほうで創立の20周年記念ということで、具体的な事業のほうはあまりできないということで、今年度、直営で烏山公民館のほうで3回ほど事業を実施していたものですから、額のほうはかなり少ない額で予算化されておりました。次年度につきましては、子供の体験を中心とした活動事業のほうを年間11回ほど行う形になっておりまして、このような予算化をしたものでございます。

また、若者交流事業につきましては、今年度2月15日に婚活イベントのほうを1市1町の結婚相談所のほうで実施して、15組限定で募集をかけたんですが、約100名ほどの申し込みがありまして、会場の都合で2名ずつ増員しまして34名の合格者で実施をしたんですが、そちらのほうもレディオベリーのイベントホールをお借りしまして実施したところなんですが、6組ほどのカップリングができて非常に好評を得たものでございます。

また、市長が各企業のほうを議長と市長で訪問した際に、ぜひとも婚活について市でも御協力をお願いしたいということで、市長のほうからも特命事項で市単独のイベント活動をやってはどうかということで、今回、約70万円近いお金を新たに組ませていただいたものでございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 5番望月千登勢議員。

○5番（望月千登勢） 若者交流についての大変積極的な活動というか、積極的な施策が展開されるということで、大変うれしく思いました。多くの若者たちの交流の場が必要とされているというのは、本当に福祉の中でいくと、引きこもっている方、それからコミュニケーション不足のところから、私たちが積極的につくらなければいけないということが予算化されているということで、大変うれしく思いました。

子供の体験教室のほうですが、どのような団体との連携をとられるおつもりなのか。そのあたり、方針をお聞かせください。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 子供体験教室事業につきましては、以前、文部科学省の子供の居場所づくり事業等で、平成16年からずっと続けてきたものでございます。代表者が佐竹さんが代表をしています風の顔ランドのほうが主に事業の実施母体となりまして、子供の体験教室、ザリガニとりとか、教室だけじゃなくて、ケイドロとかいろいろな高校生、中学生とともに遊びを交えた体験教室等を実施している事業でございまして、今年度は風の顔とも話がつきまして、年間12回ほど実施していただけるということで回答が来ておりまして、そのような形で事業の準備を進めているところでございます。

○議長（佐藤昇市） 6番田島信二議員。

○6番（田島信二） 4点か5点質問いたします。46ページ、畜産振興費3,071万4,000円ありますね。56ページ、七合小学校施設整備費120万円、82ページ、農地中間管理事業770万円、前年度なかったんですが今年度あります。83ページ、JA那須南営農部会補助金58万3,000円、あと83ページ、同じく畜産担い手育成総合整備事業補助金3,046万5,000円、この中身をお願いします。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 46ページの畜産振興費でございますが、これは栃木県の農業振興公社が主力でやる事業でありまして、那珂川町と我が市と近隣、合わせて10カ所以上にならないと該当しない事業なのですが、平成27年度は本市では2名の方が草地造成、畜舎を建てる必須条件で飼料作物をつくらなくちゃならない。そういう必須条件がありまして、草地造成と畜産の施設等を建てる事業でありまして、昨年までなかったものですから、大幅に畜産振興費で大きく出てきております。

83ページでございます。JA那須南の関係は、JA那須南に各部会等がございます。30じゃきかないかもしれませんが、その部会等の運営するのに若干の補助金としてJAに1回でいっちゃうんですが、JAはその中から各部会に、その事業の内容によって配分しているというような状況でして、これは那珂川町も若干那珂川町のほうが多いんですが、そういう部会の運営費に係る補助でございます。

その次、同じく83ページ、畜産の関係ですが、これはただいま畜産担い手のほうでお話しした金額でございます。それから、82ページの農地中間管理事業でございます。これは770万円ですが、前にもお話ししましたが、中間管理機構という事業が県の4本の柱で出てきまして、離農される方、2町歩以上の方に70万円、5反歩以上の方に50万円、それから5反歩未満の方に30万円というような、離農される方々の貸し手としての補助金、そういうものが入っております。

また、それプラス集落で集積事業をやりましょうというときに、その集落に対しての国からの補助ということで、いずれにしましても新規事業なものですから、特に金額的にはこういうふうに大きく出てきちゃう状況であります。新しい4本の柱の国の施策の中の事業の一環でございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 網野学校教育課長。

○学校教育課長（網野 榮） 予算書の56ページでございます。こちらの教育費、小学校費の中の一番下の説明欄ですね。七合小学校施設整備費120万円の御質問がございました。こちらにつきましては、この予算書の76ページにも工事一覧ということで、建設工事一覧表というのが添付されている76ページにも記載してございますが、七合小学校の黒板の張りかえ工事でございます。黒板がちょっと古くなってしまいますと、横から見たりいろいろした場合に、光っちゃって黒板に板書したやつが見えなくなってしまうんですね。そういった事象が発生しておりますので、黒板の張りかえ工事、6教室ございますので、こちらの黒板の張りかえ工事を120万円をかけて実施するというものでございます。

以上です。

○6番（田島信二） 了解しました。

○議長（佐藤昇市） 7番川俣純子議員。

○7番（川俣純子） 最初、38ページで、民生費の中の子育て支援、子育て支援センター事業費、地域子育て支援一般型事業費、ファミリーサポートセンター事業費、微妙に違う名前になっていて、やることも違うのはわかるんですけど、ファミリーサポートセンターのほうは概要の中にちょっと説明があるのですが、ほかがどれがどれにあたっているのか、ちょっとわかりにくいので、総額にすると結構な金額になっているので、それを教えてほしいです。

次が、39ページの民生費の中の児童の中、市立保育施設運営委託費、これが結構増えているみたいな感じがするんですけど、もしかすると料金が変わるので、そのためのことなのか説明をしていただきたいと思います。

次が、88ページ、毎年聞いているんですけど、奨学金の補助金が出ています。今年度ちょっと増えているので、何名か増員の予定で増やしているのかどうか。

次の89ページの教育費の中の社会教育費、那須烏山市成人式実行委員会交付金がことしはゼロになっているんですけど、どこか違う課でやることになったので変わったのか。やらないのか。それとも、何か会費とか集めるのかちょっと伺いたいなと思ひまして、お願いします。

○議長（佐藤昇市） 青木こども課長。

○こども課長（青木 敏） それでは、38ページの、まず子育て支援センター事業費299万4,000円の件なんですけど、まず、この子育て支援センター事業費につきましては、現在、こども館でやっている移動出前サロンとか、育児不安等に関する相談とか指導などの、こども館でやっている事業に対する事業費という形になります。

次に、ファミリーサポートセンターは来年度から実施するものでありまして、乳幼児や小学生等の子育て中の保護者を会員としまして、子育てをお願いしたい人とか、子育てを受けたい人を中間的な調整を図るための、そのためにやるやつがファミリーサポートセンターということで、保育園に仕事で連れていけないから、かわりの方が連れていくとか、あとお迎えとか、そのような形になります。

次に、39ページの市立保育施設運営委託事業費ということで、これにつきましては、4月から、子ども・子育て支援新制度が始まりまして、増えた理由につきましては、今まで認定こども園、みどり幼稚園さんが今度、認定こども園ということで、3歳、4歳、5歳の分も今度市から負担金として払う関係が出てきましたので、それで増えたという形になります。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 網野学校教育課長。

○学校教育課長（網野 榮） 奨学金の御質問がございました。88ページでございます。こちらにつきましては、昨年度に対しまして、今年度は増員を図った、対象者を増やすということで、増えた関係上、このような数字になってございます。平成26年度は560万円、平成27年度が680万円ということで、120万円の増になっておりますが、こちらにつきましては、昨年度は14名を対象としておりましたけれども、平成27年度は21名ということで、プラス7名の枠を高校、短大、大学という対象部分を増員を図ったということで120万円の増というふうになっております。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 川俣議員の御質問にお答えいたします。成人式事業でございます。わかりやすい資料としましては、お手元に予算概要という書類が行っているかと思えますけれども、そちらの19ページをお開きいただきたいんですけど、こちらの下のほうで社会教育総務費732万3,000円の中の上から2番目に成人式事業費があるんですけど、前年度80万円、今年度も80万円ということで、今まで毎年成人式を迎える二十の方を公募いたしまして、実行委員会を6月ごろから開催しておりまして、その中で代表者を決めていただいて、その代表者あてに、実行委員会あてに交付金として一括交付をしておりました。

やはり交付金よりも、もっと見える一般会計で管理したほうがいいのではないかという意見がありまして、今回、一般会計予算に計上させていただきまして、交付金から一般会計への取り扱いとしたものでございます。内容につきましては全く同じ80万円で予算化をしております。どうぞ御理解のほどお願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 青木こども課長。

○こども課長（青木 敏） ただいま川俣議員の答弁に対して答弁漏れがありましたので、一言御説明を申し上げます。

質問の中で子育て支援事業費というお話もあったと思うんですが、この子育て支援事業費というのは、この中に3つの事業が入っております。まず1つが、遺児手当給付費ということで、父親か母親が亡くなっている場合に子供に払う遺児手当と、それと子育て支援短期事業というのがありまして、例えば子供がひとり親家庭の中でお母さんが急に病院に入院するようになった場合、子供を例えば明和園とか桔梗寮に預けている。その事業費が子育て支援短期事業費ということになります。

それともう一つが、家庭相談員活動費ということで、これはお父さんとかお母さん、家庭での問題を家庭相談員がこども課におりますので、その家庭に対する相談を受けるということで、子育て支援事業費、中には3つの細事業があるという形になります。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 7番川俣純子議員。

○7番（川俣純子） ほぼわかりました。ただ、新規のファミリーサポートセンターの事業費が300万円ぐらいとっていますけど、これは保護者を会員としてと書いてあるのは、名前だけの登録でしょうか。それと、皆さん、サポートするのはボランティアでやるとしたら、こんなに事業費がかかるのは、どこかセンターみたいなのを借りるのか。事務所みたいなものがあるのか。また、手伝ってくれたボランティアではなく、支給するお金とかがあるのか。お願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 青木こども課長。

○こども課長（青木 敏） 主な経費につきましては、こども課のほうでサポートセンターを事務をやる保育士を雇う人権費が主なものでございます。それが子育ての親とか、その中間の事務関係をやるという形になります。

以上です。

○7番（川俣純子） 了解。

○議長（佐藤昇市） ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前10時55分

再開 午前11時05分

○議長（佐藤昇市） 休憩前に引き続き再開いたします。

2番小堀道和議員。

○2番（小堀道和） 何点か教えていただきたいと思うんですけども、これを読みとくことは新人議員が言っているようになかなか難しいので、間違っているかもしれないんですけども、お願いします。

まず、1点目なんですけど、10ページの歳出の中の10款の教育費ですね。これ全体で昨年よりも1億7,100万円近く増えています。これはスクールバス代とか、江川小学校の改修費とか、その他の費用でアップしていると思うんですけども、この学校の環境設備というのは多分他市町村というか、全国的に見ても引けをとらない、こんな小さなまちなのになっているんじゃないかなということを感じています。

エアコンに至っては、ほかで住民投票までするぐらいの優先順位をつけてお金を使っているということを考えると、やっぱりまちの人たちにも我々、本当にこんない環境ですよということを僕なんかは感謝すべきだなというのを素直に思っています。これはその思いなので回答は要りませんけれども。そういう気持ちというのはやっぱり大切じゃないかなと僕は思ってい

ます。

次は、44ページに歳出の中で4款で衛生費の3項目目の中に、し尿処理費が昨年に比べて2,100万円ほど減っていますけれども、これはいいことなのかという点とあれなんですけれども、かなり削減になっているので、その理由と今後の見通しを教えてくださいなと思います。

それと3つ目ですけれども、46ページに当たるんじゃないかと思うんですけれども、歳出の中で6款農林水産業とか、この辺で前、一般質問で農業の後継者の問題があって、5年後、10年後とか、息子世代に本当に農業がどんな状態になっているんだろうということ調べるということで、アンケートの提案をお願いしたんですけれども、予算化されていないのでちょっと心配なんですけれども、市長の答弁の中にもこの農業の後継者に関してアンケートをとるというふうな回答があったので、これに関してどういう項目なのかというのは、これは常任委員会の中で説明をいただければ結構だと思います。

それと次に、51ページのところの歳出の中の8款土木費、この項目の3番目道路新設改良費、たくさんこの予算はいろいろ増えた関係だと思うんですけれども、去年に比べて1億9,300万円ほど減っています。いろいろな理由があって減っているんだと思うんですけれども、多分この土木関係のお金まで回らずに……。

○議長（佐藤昇市） 小堀道和議員。同じ経済建設なので、その質問はそれ以外でお願いしたいと思います。

○2番（小堀道和） じゃあ、次に行きます。55ページの歳出のところ、10款の教育費の中の事務局費に、小中学生の海外派遣の費用が計上されています。これの逆に受け入れるほうの予算でどういふふうに入っているのかなというのが心配というか、それと、受け入れる側でどこまで市が負担するのかというの、これって考え方によってなんですけれども、やはりあまりお金をかけなくても魅力を発信すれば来てくれるというふうな思っているんで、どんな受け入れ方をして、どんなお金でやるのかというのを教えていただきたいと思います。

それと、64ページの歳出の11款災害復興費、これが去年に比べて1億7,900万円減っていますけれども、これはもう災害復興に関してはほぼこういふことで落ち着いたという、そういうことでよろしいのかどうかを教えてくださいなと思います。

それと、ぐっと飛んで166ページ、歳出の中で介護保険の特別会計なんですけれども、2款の保険給付費の中の1項目の中で、居宅介護サービス給付費が2,200万円ほど減っています。2項目の地域密着型介護サービス給付金が、逆に2,000万円ほど増えています。それと、3項目の施設介護サービス費は1,600万円ほど増えているんですけれども、この介護サービス費というのはどんどん増えて、本当に、これ、大変だという認識を持っているんですけれども、トータルとしては大きく増えているんですけれども、今後のそれぞれの見通し

と対応、今回、介護保険費って上がったりした、その辺で説明が合ったんですけれども、これからの今後の見通しも含めて、対応を含めて、教えていただければと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 零環境課長。

○環境課長（零 友二） まず、44ページのし尿処理費についての御質問だったと思います。申しわけございません。委員会のときに。

○議長（佐藤昇市） 暫時休憩いたします。

休憩 午前11時12分

再開 午前11時13分

○議長（佐藤昇市） 再開します。

網野学校教育課長。

○学校教育課長（網野 榮） それでは、55ページの下から説明欄の4行目になりましょうか。小中学校海外派遣事業ということで429万円がございます。こちらの海外派遣につきまして、今後、派遣とは逆に今度受け入れの体制はどうかということでございますが、こちらの海外派遣事業については、これまで平成6年度から実施をしまして17回実施しております。相互交流をしているところでございますが、最近はなかなか、ぜひ日本にも来てほしいということでこちらから毎年行っている折には、向こうの市長、教育長には呼びかけはしておりますが、なかなか日程の関係がつかないということで、ちょっと最近は来ていない状況でございます。

これまででは何回か旧南那須時代には向こうのホームステイの大人の方、それから生徒さん含めて訪問した記憶がございます。ここ最近はございません。これまでのスタイルでありますと、経費については基本的には自己負担で来ていただいて、泊まる場所等についてはホームステイということで今までは実施しておりました。やはり十数回派遣事業をやっておりますので、その行ったホストファミリー、お互い相当いますので、市内にも相当おりますので、その方に声をかけをすれば、全てホームステイ、オーケーですよということで、これまでは受け入れをもらって、やっております。

そういうことで、昨年も本市の職員も随行で行きましたけれども、向こうの市長、クナック市長とおっしゃるんですが、やはりなかなか日程がとれない。選挙があったりとか、そういった関係でなかなかとれないんですが、ぜひ行きたいという意向は伝えてきておりますので、機会があったらぜひおいでくださいと招聘はしている状況でございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 樋山健康福祉課長。

○健康福祉課長（樋山洋平） 166ページの介護保険の介護サービス諸費の中の居宅介護サービス給付費、地域密着型介護サービス給付費、施設介護給付費の関係について御説明をいたします。

これは、2,000万円ぐらいの増減が前年度との比較ではありますが、実績に基づいて年度の予算は組んでおりますので、8億6,000万円のうちの2,200万円というような考え方で、その増減の金額2,000万円ほどありますが、給付費総額からしますと数%というような状況でございます。

また、今後の見通しという御質問であります。この間、市議会議員全員協議会で説明いたしました第6期介護保険事業計画の中に、介護サービス給付費の推計というのがございまして、第6期ですと、3カ年のそれぞれ平成27年が22億4,000万円程度、平成28年が23億7,000万円程度、平成29年が25億1,000万円程度を見込んでございまして、これは計画上の推計でございますので、来年度平成28年度の当初予算なんかは、やはり平成27年度の実績などを加味しまして予算計上する考えでございます。

○議長（佐藤昇市） 2番小堀道和議員。

○2番（小堀道和） この介護の金額はやっぱりかなりみんなでウォッチしなきゃいけないというのと、あとはやはり市民がみんなで助け合う、そういうまちにしたいので、ボランティアとかそういう人がどんどん積極的に参画してくれるような、そんなまちづくりをよろしくお願ひしたいと思います。

ほかの項目は常任委員会のほうでよろしくお願ひいたします。

以上であります。

○議長（佐藤昇市） 3番滝口貴史議員。

○3番（滝口貴史） 何点か質問をさせていただきます。

まず12ページ、ゴルフ場利用税交付金について質問をさせていただきます。歳入の項目ですので、この18万円という額ですが、1人、栃木県は600円、またお年寄りの方は300円という形ですが、これはどういった形で18万円という額ですが、減額をしているのか、予算計上、お願ひいたします。

2点目、31ページ、定住促進対策費について質問いたします。定住促進対策費は、定住を促すまち戦略の後期計画の重点戦略になっていると思います。継続事業と予算概要に書いてございますので、継続してやっている事業だと認識していますが、やはりこれから定住を図るには、差別化が必要だと思うんですが、それに対するほかと同じようなことばかりやっけてもこのまちには定住してくれないという意見も言いながら、このことをお聞きしたいと思いま

す。よろしくお願いいたします。

次に、48ページ、元気な森づくり推進事業2,692万円について質問します。本市は本来に林業が盛んにしなければいけないところなので、それについてお願いをいたします。

次に54ページ、災害対策費について質問いたします。きょうは3月11日ですので、4年前、大変な地震と津波があった日であります。それにつきまして、今、予算概要で1,834万3,000円の予算が出ています。前年度比742万円強増えていますけれども、やはりいつ災害が起こるかわからないので、これについて3項目についてよく教えてください。よろしくお願いいたします。

次に84ページ、先ほどの元気な森づくりに関係するものであると思うので、明るく安全な里山林整備事業についてあわせて質問いたします。

最後に85ページ、栃木県アンテナショップ協議会の負担金、これ栃木県全体では幾らとって、うちの市では幾ら負担というか、何%ぐらい負担しているのかお願いいたします。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） ただいまゴルフ場利用税交付金の関係で御質問をいただきました。ゴルフ場利用税交付金につきましては、県のほうで徴収いたしましたゴルフ場利用税につきまして、その7割が市町村のほうに配分されるということになってございます。

年々本市もゴルフ場の数が減少してまいりまして、現在、対象となるゴルフ場は6カ所になってございますけれども、この18万円の減ということですが、これまでの平成25年度までの決算あるいは平成26年度、今年度の決算見込み、それらを勘案いたしまして、ほぼ前年等と同額ということで予算は計上させていただきました。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 私からは、31ページの定住促進対策事業の内容と事業の他の市町村との差別化という話ですが、今回、定住促進対策事業2,060万8,000円、主なものは補助金ということで、定住促進住まいづくり奨励金のほうに、このうち2,000万円が補助金になっております。3月で補正されましたが、一応当初的には2,000万円から始まっております。

あと、そのほかに諸費として事務費的なものとして、都内とかホンダ会社とかいろいろな会社の訪問をするということで旅費を見ておりますとともに、空き家情報バンクの充実を図るということで、説明してありますように、1月15日に空き家仲介の支援協定を締結式を行い、3月10日には、その協力者との打ち合わせ、10社ほど支援してくれる宅建等の業者と打ち

合わせをして、今後、進めるにあたり、物件等が増えることを考慮し、窓口の充実を図るということで、窓口に来庁者対応のホームページを閲覧するためのタブレットを1台設置して、進めていくということでございます。それが定住促進の本市の進め方でございます。

あと、85ページ、栃木県アンテナショップの事業でございますが、ちょっと栃木県内全体の内訳表が今、手元にありません。これは東京スカイツリーのソラマチの中にあります栃木県アンテナショップの市町の本市の負担金の額でございまして、後ほど内訳については説明させていただきますと思います。御了承願いたいと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 48ページの元気な森関係でございます。それと、関連して84ページの関連でございますが、元気な森づくりにつきましては、トータルで2,692万円ほどございますが、その中で里山林関係、それが事業費としましては各地区の通学路とか交通に支障がありそうなこさばになって雪が溶けないとかというところを計画的に行っておりまして、面積的には森林整備事業関係で43ヘクタール、それから、里山林の管理事業ということで、1回切ったところをもう一度管理しましょう。そういう面積で96ヘクタールでございます。

そういうものが主なものでありまして、84ページの補助金及び負担金の一覧表に載ってございますのは、大木須里山を愛する会に別枠で補助金として1,000万円出ておりまして、それ以外は市直営で森林組合をお願いして、もしくはシルバー人材をお願いして直営でやっているものですから、委託費のほうに計上されてございます。

84ページの1,000万円ちょっとなんですけど、それは元気な森づくりのトータル的には2,000万円の中に込み込みになってございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 54ページ、災害対策費の内容について説明をさせていただきます。

まず、この中で一番大きいのが、平成27年度新規事業であります緊急告知ラジオシステムの導入でございます。これらの業務委託料、また、貸与するためのラジオの購入費等で約1,800万円のうち1,000万円がその事業でございます。

それと、防災情報の伝達のためには、いろいろなシステムを駆使して伝達していかなければいけないということで、防災メール、また、孤立集落用の衛星電話、それと職員の一斉メールの配信システム、それと国からの情報を瞬時に伝えるJ-アラートのシステム、それと、県と

の防災ネットワーク、いろいろな伝達システムがあります。国、県との連携をとるものもあります。それらのシステムの管理とか負担金が入っております。

それと、防災無線の管理費でございますが、これがトータルで340万円ほど使っております。

こちらが情報関係の伝達の内容で、またやはりひとつづくり、災害に対応でき得る人材の育成ということで、防災スペシャリストの研修というのが東京のほうで行われております。そちらのほうに職員等を派遣して、それらの防災に関する知識を学んでいただくということで、そのような養成研修への派遣。それと、今回も備蓄の水が2年の賞味期限で切れますので、そちらのほうの備蓄用食料品の更新。それと、本市のほうで所有しております放射線測定器、これらのメンテナンスに要する費用。それと、防災協定締結都市との交流事業の交付金、いろいろなものが含まれております。

また、最後に、市単独の補助事業であります宅地周りとか被災したときのほかの事業で救済措置がないものについて、災害復旧支援金制度というものを10万円限度で助成事業を設けております。これについては、使わないことが一番いいんですが、10件分だけ見込ませていただいております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 3番滝口貴史議員。

○3番（滝口貴史） おおむね了解しました。ゴルフ場利用税については、市内6件、6カ所のゴルフ場ということで、ちょっと僕なりに少し勉強というか、ゴルフ場の利用が増えれば直接この市に交付金が入るというシステムですよね。ですから、民間企業の手助けというわけではないですが、やはり歳入が入るということはこの市が少しでも豊かになるということなので、やはりこういうのは市も大きくバックアップしていかなければならない施策の1つではないかと思えます。

だんだんとゴルフ場がなくなっていってしまっても、ゴルフ場は、ちょっと僕もいかどうかかわからないんですが、消費税とゴルフ場利用税、両方取っているわけですから、二重に税を取っていただいているところだと僕も理解していますので、そういうところの応援をよろしくお願いいたします。

あとさっきのもう一つ、アンテナショップの件なんですが、僕は結構あそこが好きでよく見に行くんですが、これは予算とは少し関係ないかもしれませんが、那須烏山市のものがほとんど置いていないというのが現状です。ぜひ多くのものをあそこへ那須烏山市のPRとして、本当に島崎さんの東力士と和紙ぐらいしか目立ったものはないので、ぜひ特産品を多く置いていただきますようお願いいたします。

以上です。答弁はいいです。

○議長（佐藤昇市） 11番高德正治議員。

○11番（高德正治） 一般会計予算についてお伺いをいたします。

51ページで、8款土木費3の道路新設改良で、地方債が1億6,780万円、これは合併特例債かお伺いをいたします。

また、60ページ、10款教育費2目の文化財保護費の17の公有財産の購入が208万8,000円、この内容をお伺いいたします。

あと、介護保険の特別会計で169ページ、保険給付費の中の地域支援事業費で二次予防高齢者対策事業費の中の委託料が625万4,000円、この内容と、その下の第一次予防高齢者対策事業費の同じく委託料で514万円、この内訳の説明をお願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 高田都市建設課長。

○都市建設課長（高田喜一郎） それでは、最初の質問の51ページの道路新設改良費の地方債1億6,780万円ですね。これは25ページに市債ということで載っていますが、道路橋梁債1億6,780万円ということで、市債に該当します。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） 私よりは60ページでございます。文化財保護費の中の公有財産購入費として208万8,000円でございます。これにつきましては、国の史跡でございます長者ヶ平の公有地化に伴う予算でございます。グリーンラインの今、長者ヶ平のほぼ東のほうの道路に面しています東側のところの約2,800平米ほどの山林になりますけれども、その部分が地権者の方と売却というような形でというようなお話もいただいておりますので、そちらを計上したものでございます。

それで、こちらにつきましては、歳入のほうで17ページにございますけれども、国庫支出金の中の教育費国庫補助金の4節社会教育費補助金543万4,000円のうちの一番右側の説明の欄、史跡等保存活用補助金ということで210万4,000円でございます。こちらが国の史跡でございますので、8割の補助がつくということで、そちらが計上になっています。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 樋山健康福祉課長。

○健康福祉課長（樋山洋平） それでは、介護保険関係で169ページの3款地域支援事業費の介護予防事業費の二次予防高齢者対策事業の13節委託料625万4,000円につきましては、通所型介護予防事業、いわゆる楽笑長生き教室とか、ほほえみ倶楽部などの通所型の介護予防事業を実施しておりますが、その委託料としまして約200万円でございます。

それから、今年度の新規事業として考えております来年度介護予防の通所介護が介護給付費から外れるということのモデル事業としまして、生きがいデイサービス事業という事業を実施することとしておりまして、その関係が405万円ということになります。

それから、次の170ページの13節の委託料につきましては514万円でございますが、これはいきいきサロンとか、ふれあいの里事業の委託料になります。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 11番高德正治議員。

○11番（高德正治） 土木費の財源、そして文化財の購入の件は了解をいたしました。

それで、もう一つ、介護に関してなんです、6次保険事業計画の中の資料だったんですが、その中の介護予防サポーター制度、これが平成26年でサポーター数が27名、平成27年も27名なんです、今度平成28年からは35名、この介護予防サポーターという方は資格を持っているのか。ある程度ボランティア的なものでも大丈夫なのか。その辺の説明をお願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 樋山健康福祉課長。

○健康福祉課長（樋山洋平） 介護予防サポーターにつきましては、いきいきサロンとかふれあいの里の指導員をやっている方で、養成講座を毎年開いておりますが、中にはやめる方もいらっしゃるんで、それほど増えないということでございます。今後、ふれあいの里につきましては、それぞれの地域の方も協力していただいておりますので、そのスタッフにつきましては介護予防サポーターには入っておりません。

介護予防サポーターの中でいきいきサロンの指導員として活動していただいている方と、中にはいきいきサロンの中に時々来て指導していただける方もいらっしゃるというようなことございまして、資格につきましては特別有しているということではなくて、研修会を何日か開いて、それに参加して修了した方に対してサポーターという呼び方をしております。

○11番（高德正治） 了解。

○議長（佐藤昇市） 8番洪井由放議員。

○8番（洪井由放） 予算概要からお願いしたいと思うんですけども、工場敷地の復旧事業費ですね。これが新規で出ておりまして、前に地震のときにこの復旧なんかするとき、半分ぐらいでしたか、助成をするということだったと思います。これはホームページでこの助成事業の決まりごとというのをいろいろ調べてみたんですが、うちのほうには載っていませんので、どういうことがあると、こういう助成が受けられるのかも含めて、地震で崩れちゃったのでやらなきゃならないというようなことだったんじゃないのかなと思いつつも、今回は何か崩壊の予防工事というようなことなので、その辺の内容をひとつお願いをしたいと思っております。

あとは、これ全体で、金額は大きく書かれているんですが、7,489万9,000円とブックスタート事業、この図書館運営費の中のブックスタート事業は本当の小さい内容かなと思うんですが、私、一般質問でたびたび教育長にいろいろ提言をさせてもらった、その内容なのかどうか。その辺をちょっと確認ができればなというふうに思っております。

あと、子供の見守り隊ですね。これは同僚議員もボランティアの見守り隊をつくって、皆さんに守ってもらおうというようなことをお話ししてこういうのができたと思いますが、今現在募集をしていると思います。この59万4,000円、このお金が云々じゃなくて、そういう見守り隊の方に、お礼か何かそういうようなものを差し上げる内容なのかなとは思いますが、その辺をちょっと確認ができればなと思います。

あともう一つが、今度こっちの予算書のほうの39ページの民生費の児童福祉費の児童措置費、ここに広域利用云々というのがございまして、これは内容説明をいただくとともに、私はもしかすると隣の高根沢町とかそういうところにお子さんを預かってもらっているものなのかなと思うんです。もし、あれだったらどこの町にどこの市に何人ぐらいお願いをしているのかなというようなところをちょっと聞きたいなと思います。

あと46ページの農林水産費、農村の環境改善センターですね。5,294万円でしたか、これにつきましては、説明の中で屋根を改修したり云々と、こんなようなことがあったかと思うんですけれども、これは多分設計はまだでき上がってないのかどうか。でき上がっていないとすれば、いつごろ設計に入って、いつごろ工事が行われるのか。その辺のところと、あと、どんなような、屋根の塗装だけではないとは思っているので、例えばトイレなんか多分お年寄りの方が使えるような、いわゆるユニバーサルデザインですか、あと階段なんかあそこ、エレベーターがないので、2階だったと思うので、その辺の配慮が当然なされるとは思いますが、その辺の考え方ですね。

あと48ページ、これ、同僚議員からも出ましたが、元気な森づくり推進事業、予算を消化することが大丈夫なのかどうか。多分今年度、高峰パークタウンの周りがきれいになるというふうに思っていたんですが、何かまだ同じままだなと思ひまして、その辺も含めてどんなものなのかなというふうに思います。

あと62ページの武道館の設計費、通常は設計をするのにはやっぱり土地が決まっていなくて設計ができないのかなというふうに思うんですね。そうすると、当然土地をいつまでに決めて、いつまでにこれを発注するのかということと、使われていない武道館の解体のほうが先なんじゃないかなと私は個人的に思うんですね。

借地で110万円、記憶ですよ、116万円だかそこらだったかなと思うんですよ。今現在、物置のように使われておりますが、耐震性のある旧七合中学校とか、そういうところへ置け

ば幾らでも置くところがあるのに、何でああいう壊れているところへ荷物を持ち込んで保管しておくのかなど。その辺も含めてお伺いしたいということと。

あと、14節の使用料、賃借料というのを一般会計だけで計算しますと、1億8,588万1,000円に間違っていなければなるんですね。そういう中で、今言った農村環境改善センターなんかも、その武道館の跡地も借りていると。その土地の使用料だけで2,000万円近くあったのかなという記憶なんですね。これはどれの、ここの中というんじゃなくて、買えるものは買う。返せるものは返す。そういうめり張りのついた予算編成をしっかりとしてもらわないと、何だかいつまでも出血多量で、何ぼ点滴打ったって間に合わないというような形になるのではないのかなというふうに思っていて、以上で締めくくりをしたいと思います。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 私のほうには予算の概要の7ページの上の、居心地のいい安全なまちづくり実現の中の工場敷地復旧事業費のことについての御質問ですので、それについて回答いたします。

この表にありますように、工場敷地復旧事業費の前に黒丸がありますように、今回、新規事業でございます。この経過につきましては、中小企業の支援、既存の工場等の支援をするということを基本的に考えたところ、以前から言われていますように、まちづくりの基本は中小企業の元気だということで、企業の誘致もいいんですが、既存の企業の支援もしていくということで考えたところ、最近、気象の変化による土砂災害等が見えるところがございます、それではということで、去年、市長と議長とで企業訪問した際に、そのような会社が1社ありまして、土手が崩れそうだとということがありまして、そういうわけで事前に対応する必要があるということで、今回、新規にこの補助事業を設けたものでございます。

この補助事業の基本となるものは、先ほど議員からありましたように、東日本大震災の被災工事敷地復旧工事助成金の規定をもとに、その規定と同じようにつくっております。助成額は限度額300万円ということで、助成対象は企業誘致条例第3条でして、その敷地の擁護とか復旧事業で、もちろん復旧工事につきましては、事業主等が申請し工事をしたものに対して、認可したものに対して助成すると。助成率もこの災害のときの助成率を考慮して、他工業、公共施設に影響する場合は2分の1、そして自己敷地の場合は4分の1ということで、今回、企業支援の一環として、これを災害防止ということで新たに設けたものでございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 第1点のブックスタート事業関係ですね。予算の概要書の7ページのほうをお開きいただきたいんですけど、こちらのほう、うちのほうで7,489万

9,000円の額となっております。こちらのほうが指定管理料が7,405万8,000円、そのほかにブックスタート事業の消耗品等が26万4,000円、また、烏山の図書館のエアコンの修繕が15万円ほど入っております、このような額になっているところでございます。

ブックスタート事業につきましては、出席率のいい8カ月健診に実施したいということで、今関係者のほうと詰めておまして、既に外側の包む袋とか消耗品とかも、もう既に準備を進めているところでございます。

続きまして、武道館の建設関係でございます。予算書の62ページの武道館施設設備費2,000万円でございます。こちらのほうは、新しくつくります武道館のほうの設計の委託料でございます。まだ、武道館につきましては、前回の市議会議員全員協議会のほうでも御説明申し上げましたように、2カ所ほど候補地のほうが絞られておりませんで、この後、関係者のほうと調整をとりまして、速やかに建設予定地のほうを絞りまして、平成27年度中には設計のほうに入りたいと思っております。

また、あわせまして、先ほど御提案のありました現在の南那須武道館の跡地関係でございます。こちらのほうが、毎年、使用料のほうがかかっておまして、4名ほど地権者がおります。まだちょっと地権者との交渉も進めてないものですから、今のところ、予算化は進めておりませんが、できるだけ早く購入のほうで市の執行部と調整をして動きたいと思っております。

あと、先日、利用者等の調整会議のほうも説明会を行った際にも、弓道部では平成13年に建てた南那須弓道場のほうがありまして、そちらのほうの施設を残していただければ、新しい武道館のほうに弓道館のほうは要らないという回答も得ておりますので、できるだけ残すような方向で進めていきたいと思っております。どうぞ御理解のほどよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 網野学校教育課長。

○学校教育課長（網野 榮） それでは、予算概要書の7ページの子供見守り隊事業費59万4,000円の御質問がございました。こちらにつきましては、小中学生の登下校時の安全を管理しようということで、身近なところで小中学生の登下校の安全管理をみんなでやってみようということで、ボランティアでお願いしようということで現在考えているところでございます。

過日、お知らせ版に募集をかけまして、また、自治会長会議なんかにもお願いをして、自治会、お知らせ版の公募、それから学校のほうからの推薦等を含めて、現在考えているところでは約70人程度の見守りボランティアを組織をしたいなど、走りにですね。これから身近な方がそちらに賛同を得られれば、どんどん増やして身近なところで子供たちの安全を確保でき

ばなど。

学校の近く、スクールバスを降りた後の一人で歩く道すがら、そういったところにこういったボランティアの人たちが夕方3時くらいにお知らせなんかいろいろ、旧南那須地区では広報でやっておりますので、そういった音声を聞いたら、すぐ子供たちが帰るなどということで、そちらに配置をして見守りできればなという構想でございます。

現在もスクールガードリーダーや自警団、それから防犯パトロール隊ということでいろいろ入っております。これらはそれらの目的に従って従来どおりやっていただいて、またそれに重ね重ねで子供見守り隊というもので、本当に身近に自分でできる範囲内でやってもらうという趣旨で考えております。

この予算の59万4,000円の内訳でございますが、先ほど議員のほうからありましたように、謝金というか、些少ですね、事業が終わった後に何がしかの些少、金品になるか物になるかわかりませんが、1年間活動していただいたら500円か1,000円かわかりませんが、何か気持ち程度は伝えて1年間の総括をしたいなというふうに考えております。

それから、それ以外のものについては、これから反射ベストを、ただ、どこかのわからないおじちゃん立っているということじゃなくて、認識ができるように子供見守り隊というような反射ベストみたいなものをつくって、子供たちにもわかるように、それから、帽子、それから交通指揮棒、紅白のお巡りさんがよく持っているような、ああいった道路を制したりとか、ちょっとしたものを持ってもらう。

あるいは軽トラックなんか車両で移動できる人については、その管内を移動してもらう意味で、車両のところに小さなステッカーでも張ってもらって、子供見守り隊パトロール中とか、そして啓発を図るとともに、抑止効果、不審者がその地域に入り込まないように、そういった抑止効果も期待しながらやっていきたいというふうに考えております。

もう一つは、最後にボランティア保険ということで、社会福祉協議会等で300円で1年間入れるボランティアの場合に使える保険がありますので、登録、協力いただける方については全て保険に加入して安全確保を図ってもらうという構想で、現在のところ、考えている状況でございます。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 8番渋谷由放議員の質疑の途中でございますが、ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前11時59分

再開 午後 1時00分

○議長（佐藤昇市） 休憩前に引き続き再開いたします。

○事務局長（平山 隆） 滝口議員の質疑の中で答弁漏れがありましたので、商工観光課長から答弁させます。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 私のほうから、先ほどの答弁漏れで、予算書の85ページ、栃木県アンテナショップ協議会負担金26万6,843円の県内全体の負担金及び本市の負担割合はどのくらいかという話でしたが、まずは、全体的な負担金は1,300万円になっております。そのうちで人口割、売り上げ割を50%、50%、つまり650万円、650万円となっております。本市においては人口割が1.5%で9万4,556円、売り上げ別が2.1%で13万6,245円で、トータル的には23万802円になりますが、これは平成25年度の負担金の関係の過不足を調整して26万6,843円になっておりまして、全体的にはやはり2.1%となっております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 先ほどの渋井由放議員の質問で答弁漏れがありましたので、追加で答弁をさせていただきたいと思っております。

予算書の46ページ、下のほうで農村環境改善センター施設整備費5,294万円の事業でございます。こちらのほうは、センターのほうが地区約30年となりまして、市の公共施設整備方針の中で、大規模改修等による長寿命化に向けた対策が必要だということになっておりまして、そちらのほうの一環事業といたしまして、今回予算化をさせていただいたものでございます。

設計費につきまして218万円ほど予算が組んでありまして、こちらのほう、新年度になりましたら、早々に設計業者のほうを決めまして設計に入りたいと思っております。工事につきましても、早急に、設計が決まりましたら業者のほうを入れまして、年度内に完了したいと思っております。

事業の重立った内容につきましては、屋根の補修、あと外壁、内容物につきましては2階の研修室の床材の変更、あと会議室が不足しているという要望もありますので、あまり間取りを変えないような形で会議室等を整備したいと思っております。

また、漏水の疑いもありまして、外回りの水道管のほうも外配管でできるような工事設計にしたいと思っております。望月議員の御提案の中のユニバーサルデザインとはちょっと違ってしまいますが、今回はそのような改修を予定しているところでございます。よろしく願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 青木こども課長。

○こども課長（青木 敏） それでは、渋井議員の御質問にお答えをいたします。予算書の39ページ、広域利用保育委託費2,841万8,000円についてお答えをいたします。

渋井議員のおっしゃるとおり、本市に住所がある乳幼児の方を他の市町村の保育園へ委託する費用となっております。委託児童数は合計で21名を予定しております。内訳といたしましては、那珂川町へ3名、芳賀町へ5名、矢板市へ11名、さくら市へ2名、合計21名で8保育園へ委託を予定しております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 予算書48ページの元気な森づくり関係の御質問でございます。御指摘の高峰パークタウン周辺の整備につきましては、今月中に、今もう既に森林組合に発注済みでございます。整備のほうは今月中に終わる予定でございます。なお、平成23年度から整備事業を行ってまいりまして、平成26年度は3カ所整備を行いますが、その後の管理事業ということで、下草刈り等々はこれからも23カ所ほど続けてまいります。

それから、先ほども漏れてしまいましたが、この事業費の中にはお目にとまっている方もいらっしゃると思いますが、廃材を利用したベンチ等があちこちにあると思いますが、その経費50万円、それから市の植樹祭のときに子供たちにお箸などをつくってもらう材料費、二十四、五万円なんです。そういうものも2,000万円強の中には含まれていますので、申しわけありませんがお含みをいただきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 総体的な中での使用料の件について御質問をいただきましたが、総務企画常任委員会に入るわけなんです。全体的なことということでここでお答えさせていただきます。よろしいでしょうか。

この使用料関係につきましては、私どももこれから、今現在も土地等必要な場合、原則は購入ということで、あと普通財産等で使用されないものについては速やかに処分をしていく。そのような考え方で進めております。ですので、借地等におけるものについても、使用していないものについては更地にして速やかに返すような処置をとっていくように、これらにつきましては、公有財産管理運用委員会等でもしっかり提案をしながら、また協議しながら粛々と進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 8番渋井由放議員。

○8番（渋井由放） それでは、また確認をしながら、民生費のいわゆる広域利用はその近くの保育園にお願いをするということで、矢板市が11人いるんだというのはちょっとびっくりしました。お勤めの関係か何かそういうのがあるのかなとは思いますが、これは了解をさせていただいて、次に、農村環境改善センターの整備費ですね。これは屋根や外壁、床、会議室、あと漏水に対応するというようなことでございます。

座って用事をたしてシャワーが出るようなトイレというのは、今現在ここに整備されているのかどうか。今の中ではなかったですが、現在あれば大丈夫だと思うんですが、そういうのはそれほど費用もかからないのかなというふうに思いますので、その辺、提案としてどうなのかなというふうに思います。

そして、元気な森づくりは、高峰パークタウン周辺ということで、私が住んでいるので言っているわけではないんですが、あの周りは市の土地でございます。買った人は何で市がこんなにぼさぼさしているんだよと、こういうようなことを言っております。ですから、できるだけ早くやってもらうのと、その後の管理もしっかりしてもらう。一度はその木が強風で倒れまして、自宅ではなかったんですが、小屋を壊したというようなことがあって補償をしたというようなこともございますので、その辺しっかり見ていただいて整備をお願いしたいなというふうに思います。

あと、教育費の武道館の件でございますが、土地を買うなら買うということで予算づけはなされてないのかなというふうに思ったものですから、116万8,000円の使用料を払うということで、あと弓道の施設はあそこへ置いておけばいいですよという話なんです。これもかなり古いものではないのかなというふうに思うんですね。どうせならば、私は個人的に、武道館というものをきれいに整備するわけでございますから、そういう中に一緒に整備をしたほうが、後々修繕だ何だでお金がかかったりするのであれば、そういうことも考えてみたらどうなのかなというふうに思うんですね。

あと工場敷地の復旧事業、日本は法治国家ですから、こういう規約、規則、そういうものがあって、これに基づいてこうなんですよということで、どんな規約のもとにこれが出されているのかと伺ったつもりなんです。その地元企業を、撤退しないように一生懸命支援するんだというのは私はよくわかる話なんです。当然だと思います。そういうような規約がどこにあったのかということと、この企業は一体どこなのかなということですね。

あとは子供見守り隊なんです。これは70人のボランティアということで、同僚議員が非常にいいことをおっしゃいました。市長の感謝の気持ちを伝えれば、どんどん集まってくれるんですよということで、最後の反省会とか年度の何かあるのかなと思うんですが、そのときには市長の感謝の気持ちを伝えるとともに、幾らかもうちょっとこう……保険やベストなどとい

うこともあると思うんですが、気持ちを込めてプラスアルファ出してあげられればなというふうに思います。

あとブックスタート事業なんですが、26万4,000円、8カ月の健診に来られた方に本を配っていただける。貸していただけるということになるんだと思うんですが、8カ月だけじゃなくて健診は1年の健診とかそういうのがあるのかなというふうに思うので、何も使っていない土地に116万8,000円をかけているぐらいであれば、この倍や3倍、できるのではないのかなと思うわけですが、以上、いかがでしょうか。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 農村環境改善センターの改修に伴う追加の質問で出ましたシャワーつきトイレの件につきましては、今回の改修の設計の中に含めて検討させていただきたいと思っております。

あと、旧武道館関係の建設に伴います弓道場の話題が出たんですけど、弓道場につきましては、平成13年に建築されておりまして、まだ13年が経過したところでございます。現在使用している弓道部につきましては、十分こちらの施設が残ればいいという話をいただいておりますので、そのままできれば続行していきたいと思っております。

また、底地の購入につきましては、執行部と相談いたしまして対応のほうを考えていきたいと思っております。どうぞ御理解のほどよろしくお願いいたします。

あとブックスタート事業につきましてはなんですけど、前にも御提案いただいたブックサービスにつきましても、今後、ブックスタートの状況も見まして随時検討させていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 工場敷地復旧事業費の中の、助成金の正式名は85ページにありますように、工場敷地崩壊復旧工事助成金ということでございまして、先ほども言いましたように、平成23年度の東日本大震災の復旧工事の助成金に基づきまして、今回、工場敷地の崩壊を復旧する工事に対して工事費の一部を助成するものとして、現在規定を作成中でございます。

場所につきましては、南大和久の大生工業ということになっています。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 元気な森関係でちょっと言葉が足りなかったんですが、大木須でやっているのは地域で育む未来の森林整備で、高峰パークタウンとかほかの通学路などなどを

やる事業として、また1つ。それから、鳥獣害対策ということで整備する木を切ったり、草刈りをしたりという事業で3つあるんですが、まさに、高峰パークタウンの場合は2番目の通学路、地域住宅に接している周辺の整備ということになりますので、今回、周囲を1町歩切るわけですけれども、引き続き下草刈り等々につきましては、継続してできるように進めてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 網野学校教育課長。

○学校教育課長（網野 榮） 子供見守り隊の件でございます。ただいまありましたように、最後に気持ちということで、市長の気持ちを伝えるということが大切だろうというお話がありました。同感でございます。そのときには、市長のほうから各ボランティアの皆さんにお礼を申し上げるような方式をとっていきたいというふうに考えております。

あと謝礼的なものにも、やはりこの気持ちと合わせまして努力できるかどうか、よく検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 8番 渋谷由放議員。

○8番（渋谷由放） ぜひとも、農村環境改善センターの整備ですがね、我々議員もいろいろな提案をさせていただいているものですから、そういう中であって、あまりお金がかからないものはどんどん採用していただきたいというふうに思います。

あと見守り隊ですね、常々市長は感謝の気持ちを市民の皆さんに伝えているわけですが、もっとあふれる感謝ということで、よろしくお願いをしたいと思います。

児童、これはわかればなんですが、矢板のほうに11人も行っているというのが、何で矢板、こんな11人、大きい事業所があってそらちのほうに行っているのかなというふうには思うんですけれども、その辺、わかればいいんです、教えていただくのと。

あと、工場敷地の復旧事業費、これはもう一度確認しますが、今、その規約規定を整備をしている段階だと、こういうようなことなんでしょうかね。通常だと、規約規定を整備し、市議会議員全員協議会なりに話をし、そして、こういうところへ上げていくというのが筋ではないのかなというふうに、今さらこれ、だめとかそういうのじゃないんですよ。やっぱり流れとしてはそうなんじゃないのかなというふうに思うんですけれども、その辺のところはいかがでしょうか。

○議長（佐藤昇市） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 子供見守り隊等のボランティア隊員には、本当にあふれる感謝をしようかなということでございますので、本当に気持ちも入れて、その気持ちはまさに同感であり

ます。子供見守り隊をとってみますと、今も本当に御尽力いただいているのが自警団、そして防犯パトロール隊、あわせて、きのうは緊急の街頭指導を行ったんですけれども、朝の交通安全ですね、毎朝、出ていただいております。本当に交通指導員、そういったものを含めまして、本当に日ごろから感謝をしています。特に、今回の今の世相は大変子供たちに危険が迫る世相でございますから、そういった意味では、この子供見守り隊70名については、本当にありがたいと考えております。

そういうところでございますので、私も議員御提言のあふれる感謝をしたいと思っておりますので、ぜひ多くの議員各位にも御理解いただいて、ひとつその際には補正予算等も計上することも検討しながら、あふれる感謝をしたいと思っておりますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思っております。

○議長（佐藤昇市） 青木こども課長。

○こども課長（青木 敏） 勤め先の事業所についてはここではちょっと把握はしておりませんが、矢板市の保育園として利用する保育園につきましては、こどもの森保育園とこどもの森こころ保育園2園を11名の方が利用するような形になっております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 工場敷地の崩壊復旧工事の助成金ですが、交付規定ということでただいま大体原本はできておりますが、4月1日付で公表ということで公示しますが、そういうことで今、作成中ということで御理解願ひたいと思っております。

以上です。

○8番（渋井由放） 了解しました。

○議長（佐藤昇市） 9番久保居光一郎議員。

○9番（久保居光一郎） それでは、この予算について9点か10点について伺いたいと思っております。

まず初めに、これは今年度の予算と関連しますので、ひとつお聞きしたいと思っております。これは全体的な部分で私の所管は総務企画でありますけれども、全体的な観点から質問をちょっと一、二させていただきたいと思っております。

まず、総合計画の中で、後期基本計画が平成25年度から平成29年度までにのっとなって今進めているわけでございます。ちょうど平成27年、これはこの後期基本計画の中間年度でございますよね。今までも2年間、この後期基本計画にのっとなって、毎年予算のほうもそれに反映させるような形で組まれてきたんだというふうに私は考えておりますけれども、そういう中で、中にいろいろな成果、この後期基本計画の中身を見ますと、いろいろと直近の実績値と目標年度、これは平成29年度でありますけれども、目標年度にきっちりと明確にあらわ

している数字、これは数字であらわされるものもたくさんあるわけでございます、この後期基本計画を見ると。

それからはあとは、市民の意識調査をしなければ、なかなかわからない。ですから、直近の部分で、ある項目については市民が満足しているというその満足度が30%、これを目標値では50%に上げたいというような設定の仕方をされているようでもありますけれども、そういう実績であらわしている数値があって、それから、市民から聞かないと、聞き取り調査しないとわからない目標値といいますか、進捗状況というのものもあるかと思うんですが、この辺の部分とあわせて、今年度は後期基本計画と絡めてどういう認識で、この計画に沿って順調に進んでいるのか。その辺についてお聞きしたいと思います。順調に進んでいるから今年度はこんなところをこういうふうにしたというようなところがあったらば、ちょっとお聞かせいただきたいなというふうに思っております。

1つの例を挙げれば、例えばこちらの皆さん、ひな壇の方はお持ちじゃないかもしれませんが、後期基本計画の64ページに郷土資料館、歴史資料館ですか、の来館者数が平成25年度の直近の数字では年間758人、それが目標値では平成29年ですよ、再来年には1,300人とあります。これは資料館が開館される日は恐らく300日以上になるかと思うんですが、それで割ると、目標値が4.3人に設定されております。

果たしてこんなような目標で先日、これ、私も一般質問でも言いましたけれども、歴史資料館を新たに新設するんだということでもありますけれども、この辺との絡みで、この目標値は私は変えたほうがいいんじゃないのかなと。

また、新たに資料館をつくるのは熟慮されたほうがいいんじゃないかというふうなことを申し上げましたけれども、それについてこの後期基本計画に載っている建てた当時の758人から目標値が1,300人、これが本当に適当であるか。この辺の修正も踏まえてどのような後期基本計画と毎年度の予算を折り合いをつけているのか。その辺のところを所管の課長と市長にも伺いたいなというふうに思っております。

それから、2番目は、今度はこの予算概要のほうから質問をさせていただきたいと思っております。

予算概要の13ページに、基金残高について書いてございます。この基金は、一般会計で平成27年度末現在高58億6,000万円何がし、それから特別会計が2億3,140万円、全部で60億円ぐらい、平成27年度の年度末にはありますよね。現在では、平成26年度の年度末では68億円あるわけでございます。この基金については、安定、しかも確実に、そして有効な手法をもって管理をしなくちゃならないというふうに書いてあるんだと思います。

これは私の所管の課でありますけれども、この運用について、有効で確実に安全に運用しなくちゃならないという規定がございますけれども、私は昨年決算委員会で所管の課長に聞いて

ております。しかし、これは市長に判断をいただきたい。また、市長の意見をいただきたいということから、あえて質問させていただいておりますので、議長のほうからのお許しもいただいておりますので、お許しをいただきたいと思っております。

これ、実はいろいろな民間の銀行なんかを調査すると、大体普通貯金だと0.025%ぐらいの金利だと思うんですね。0.027%とかですね。低いものは0.022%ぐらいのものもあるかと思うんですが、ある金融機関なんかは、3年間定期に積んでおけば1%の金利がつくというのものもあるわけですね。そういうものであれば安全なんじゃないのかな。0.025%で銀行に預けておくよりも、40倍の金利がつけば3年間据え置くぐらいの基金は、この中から5億円なのか10億円なのかわかりませんが、そういう運用の仕方もあるんじゃないのかなというふうに思うんですが、それについての市長の考えを伺いたいと思っております。

それから、3点目は予算概要の8ページの景観形成作物推進モデル事業として206万8,000円が計上されておりますけれども、これはここ2年ぐらい前から小埜駅を中心としたヒマワリを作付けをしたり、去年もまたヒマワリとレンゲ畑ですか、それを作付けしている。そのまた継続化というふうに思うんですが。

景観形成でありますから、もっと、これは猿久保あたりのところの耕地の借り上げ代も含まれている事業だと思うんですが、もっと多くの人が見られるような場所に、そしてそれが継続発展できるような、もっとどんどんどんどん広げていけるような、そういうことも考えていかれたほうがいいんじゃないのかなと。そういうのが市長の言われる戦略ではないかなと思うんですが、その件について伺うものであります。

それから、4番目は、山あげ会館施設整備費の1,000万円、これがリニューアルのための設計業務委託費とありますけれども、1,000万円が設計料であれば、本体のリニューアル費は幾らぐらいの予算を考えているのか。それについて伺いたいと思っております。

それから、5番目は、ジオパークの検討委員会を設立するためということで、149万9,000円がございます。このジオパークの検討委員会の構成メンバーはどのような方を考えて、どのような方をお願いをするのかということについてお願いしたいと思っております。

それから、6点目は、市民とともに歩む行政経営のまちづくり団体支援事業、これは8ページでございます。同じところでもございますけれども、この中に、これはもうかなり前から官学連携でやっている事業であると思っております。また、先日、まちづくり団体の成果発表会が盛大に商工会で開催されたわけでありまして。これはこれで私は大変すばらしいなど。また、役場の今の南那須庁舎の1階にその研究成果が展示されているところであります。

大変いいことなんですけど、ただ、これをこの間の発表会を私も見にいきました。聞いてまいりました。大変一生懸命やったださってありがたいと思うんですが、そのいろいろな意見や

何かを、市はどのように集約して市の事業として取り入れていくのか。何かただやってもらっているだけで、あまり市がそういう研究成果に対してそれを取り入れて、具体的に動くというところが私の勘違いかもしれないけれども、見られないような気がするんですが、その辺の姿勢について伺いたいと思います。

それから、今度は予算書のほうに戻りたいと思います。134ページ、熊田診療所の特別会計についてであります。この熊田診療所の繰入金でございますけれども、今年度1,650万円計上してあります。去年も同じ程度の繰入金がございます。

さかのぼって、平成23年度の繰入金は1,328万円でございます。しかし、この平成23年度当初は、この繰入金の1,328万円は全部基金からの繰入金なんです、このときは。それが今は、一般会計からの繰り入れが1,100万円ですか、ことしのは。そのくらいあるんですよね。ずっとそれが続いているんですが、私は熊田診療所、なかなか苦戦をしているのかなというふうに思っております。

ただ、熊田診療所の先生は、本当に末期まで、最期の最期まで患者さんに付き添って親切に診てくれていますよというような意見も市民の中からあるようでございます。であれば、そういうことをもっとも利用者の方に、熊田診療所の先生の人柄とか、そういう診察の仕方とか、本当に親身に、困った人に寄り添って診療してくれるよということ、もっともいいところを皆さんにお知らせして、さらなる利用向上を図られたほうがよろしいんじゃないかなというふうに思います。その辺の、ずっと依然として変わらない熊田診療所の現状についてお聞きするものであります。

それから、8番目は82ページの農林水産業費の農業費の中で、八溝そば街道そばまつり実行委員会交付金、昨年まで195万円あったものがゼロになっております。その上の欄に、栃木食の回廊づくり推進事業負担金が、昨年度の25万円から300万円増えて325万円となっております。これはそばまつりはやめちゃうのか。それとも、栃木食の回廊づくりのほうに移管をしたのか。そのことについて伺いたい。

それで、もし、そばまつりが入っているのだとすれば、今まで195万円であったものが105万円上乘せされている。しかも、それが負担金という名目で入っておりますけれども、これはこの受け皿、事業主体者がある程度の事業資金を持っておられるところにやるのが私は負担金だと。この負担というのは義務的なものだと私はとらえておりますけれども、こういう名目でよろしいのかどうか。その辺についてもちょっと伺いたいと思います。

それから、9点目は、85ページであります。商工費の一番下のほうにございますイルミネーション事業交付金、これが昨年までずっと継続して200万円出しておられましたけれども、これがゼロになっております。それがその上の行に書いてありますけれども、恐らくプロジェ

クションマッピング事業交付金ということになっているのかと思うんですが、これは今までイルミネーションを続けてこられて、もう十五、六回になりますかね。旧南那須で立ち上げて以来、回数を数えると十五、六回になるかと思うんですが、これを行政のほうでこれ、交付金として出すわけですけれども、このプロジェクションマッピング、これほどのように運営していくのか。その辺の見通しについて伺いたい。

それから、イルミネーションはゼロですから、やらないのかなというふうに思いますけれども、たしか去年あたりの情報だと、1年ごとに南那須地区と烏山地区とやるんだというようなことも聞いておりますけれども、その辺も含めてどうなっているのかということと、あわせてイルミネーションの部材は今ほとんどがLEDになっております。それは1年、2年でだめになっちゃうものではございません。今まで十何回やってきて、その都度部材は買い増していると思います。

そういう部材は私、かかわっていませんからわかりませんが、恐らく100万円、200万円ぐらいの価値のものが実際今もあるかと思うんですが、それはどうされるのか。それも私はできれば、今後とも有効利用されるべきじゃないのかなと思うんですが、その点についても伺うわけでございます。

それから、10番目は、これは一番最後になってくると思いますけれども、奨学金の給付補助金についてでございます。これ、88ページ。これはもうかなり前から市長の肝いりで奨学金、身の丈以上のすばらしい事業でございまして、全てこれは全額給付で返還は求めないというようなものでございます。

ことは、さらにその対象者を増やすということで取り組んでおられるところでございます。これは大変結構なことだと私は思います。しかし、もしできれば、今まで何名この奨学金を受けて卒業されたのか。それについておわかりでしたらば伺いたい。

それと同時に、その卒業された方が、当然市外に出て活躍される方が多いかと思っておりますけれども、そのうちの何名ぐらいが市内に残って、奨学金をいただいた方が大学を卒業された方もいると思っておりますから、そういう方が市内に残って活躍されているのか。その辺の人数がわかれば、それもあわせて伺いたいと思っております。

以上で、まず1回目の質問とします。

○議長（佐藤昇市） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） それでは、最初の2項目について、私のほうからまずお答えをさせていただきます。

まず、この御質問の趣旨は、後期基本計画の中間年といたしまして、今までの計画の達成状況ということでありまして、御案内のように、後期基本計画は重点戦略のもとで政策別の重点事

業といたしまして、多くの8項目にわたりまして予算づけを行っております。

居心地のよい安全なまちづくり以下、安心、人と文化を育むというような政策別な重点事業を細かい事業をつけまして行っております。今、議員御指摘のように、成果を評価をするということは数値の評価、そして、そういった住民の皆さん方、あるいは市民の皆さん方のアンケート等による意見聴取という方法もあると思いますが、今までの前期基本計画からの継続ということでございますから、そういった今までの7年の政策評価については、先ほど具体的な数値も挙げられましたけれども、なかなかそういった数値に到達できない事業もありますが、おおむね私は順調に推移をしているのかなど、このように感じております。

ただ、今、急速な少子高齢化、人口減少というようなことに対する重点政策が大変多いわけでございますが、新たなひと・まち・しごと創生本部が出しております総合戦略、地方版ですね。那須烏山総合戦略を平成27年度つくることになっております。ですから、この後期の基本計画、今までの基本計画の見直しも含めて検証しながら、この総合戦略地方版の戦略とも連携をした事業の取り組みを今後展開すべきだろうと考えております。

もう一つは、今後の基金の運用状況について御質問がありました。御指摘のように、今、64億円相当の基金がございます。現金としては財政調整基金20億円、そして工業施設整備費が16億円であります。その中で合併当初の合併特例債の中で、13億円を基金に回しております。これは国債を運用しているんですね。それで、あの当時はたしか1.9%の利率だったと思いました。それで、約2,000万円の利子分を毎年いただいていて、その財源をもとに、このまちづくり団体への補助を行っているんですね。そういった国債運用をいたしまして、大変有利な運用だったと思っているんですが。

御指摘のように64億円のこの基金をどう運用するかということは、確かにこういう低金利のことでございますから、そういった利子運用については大いに研究をして、有利な利率の高い運用をしたいと思っておりますので、会計課を中心によく検討させるような指示をさせていただきたいと思っております。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 農政関係2点ほどございますので、一緒にお答えしたいと思います。

まず、景観形成作物関係ですが、昨年、一昨年もちょうと花を咲かせるのに失敗しまして、いろいろ御批判を受けているところですが、今年度は荒川南部のブロックローテーションをやっている中で、小埜の踏み切りの宇都宮寄りからトンネルのほうへ向かう圃場なんですけど、そこは去年も撮り鉄と言われるカメラマンが多く来まして、ちょうどカーブなものですからトンネルから出てくる、トンネルへ入っていく、そういう非常に写真写りがいいというようなこと

で評価を受けたものですから、荒川南部のブロックローテーション、土地改良区のほうにも御相談しまして、その部分だけ1町2反、約12ヘクタール御協力をしていただきたいなということで、今年度地域集落座談会といたしますか、土地改良区の座談会へ赴きまして、御了解を得たところであります。作業につきましては、御存じのように、ファームあらなん、法人化されております方々が耕起したり、種をまいたり、水はけをよくしていただいたりということで、草刈りも一部入っております。

そういうことで、小墾が約170万円かかります。

それから、滝の去年やっぱりちょっと思わしくなかった、駐車場の手前、踏み切り側の両側ですけれども、工期が足りなかったとか、素人でちょっと私らも理屈はわかるんですが、作業が下手くそなものですから、うまく咲かなかったという悪い事例になってしまいました。

したがって、ことしはシルバー人材に草刈りを5回ほど、種まきとその後の管理ですね。これを年3回ほど委託して、シルバーのプロの方々にひとつ面倒をみていただけないかということで、予算化しております。さらに、トラクターでうなっていた方、それと両側の2件のお宅の土地の謝礼といたしますか、それが計上されておまして、合計で206万8,000円ということになってございます。

小墾につきましては、議員前々から御指摘のように、ある一定の場所に広い面積でという御指摘もございしますが、小墾、滝につきましても、できれば継続して、まだまだ2年目、3年目の話ですので、継続してやっていけば、それなりの集客も生まれてくるのかなというようなことで、まだまだ小規模でございしますが、継続して実施したいという考えでございします。

もう1点ですが、八溝そば街道関連の栃木県の栃木食の回廊づくり推進協議会の中的那珂川町から茂木町まで1市3町、市貝町を入れて1市3町で八溝そば街道推進協議会が御存じのようにできてございます、会長は副市長でございしますが。

それらの中で、幹事会なり役員会といたしますか、理事会を開いた中で市から八溝そば街道のそばまつりの補助金なり交付金を直接もらうというのはいかがなものかということで、会計上、検討しました。

その結果、一旦八溝そば街道推進協議会に負担金として、栃木県で10街道がありますが、そういう街道、街道に市から町から負担金として出すと。これが財務会計といたしますか、その項目、科目的には望ましいんじゃないかということで、財政とも協議して負担金扱いにしてございます。

交付金は従いましてゼロになっております。さらに、去年大桶でやったわけですが、ホースがちょっと細くて、おそば屋さんの末端まで水が行かない。非常に苦情がありました。ことしはそういうものを改善しないと、おそば屋さんが増えてきていますので、それらのホース代が

やっぱり五、六十万余計にかかるものですから、ほかの3町にもそれなりに20万円なり、30万円なりの負担もいただく予定になっておりますが、那須烏山市としましては320万円ということですが、栃木県のこういう回廊づくりの事業の予算がありまして、市負担は320万円のうち160万円みているんですが、160万円、その事業費に見合った分だけは県費が来るということでございます。

しかし、320万円がそばまつりにいくんじゃなくて、八溝そば街道、実際の事業として旗をつくったり、啓発用の旗、それからイベント用のはんてん、パンフレット、もろもろも事務局になれば身動きできませんので、そば街道のそばまつりに320万円が全部いっちゃうというものではございません。そういうことで、一応科目的には負担金だろうということで振りかえていますので、御理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 私のほうには2点ですね。山あげ会館とイルミネーション、プロジェクションマッピングに関する2点の質問がありましたので、お答えいたします。

まず初めに、山あげ会館の整備の内容です。総事業費という質問でございました。これは3月6日の久保居議員の一般質問の答弁と重なると思いますが、今回の改修は平成3年に山あげ会館ができてもう23年たっておりますので、大規模な建物であれば、オーバーホール、修繕の時期ということで、今回、ユネスコ無形文化遺産の登録に向けて修繕をかけるものでございまして、内容については外装の塗りかえや空調設備の改修、トイレの改修、あと、あすなるパン工房と売店の一体改良の改修、大型バスや身障者用の駐車場の整備、そして会館脇の芝生広場の整備、会館の中においては、ミニチュアの更新と展示室の改装を基本とした設計を考えましたものでございます。

内容については、今後改修における会館のコンセプトを明確にした上で、山あげ保存会、地元自治会、地域の若者観光協会などの観光団体と協議して進めていくということで、事業費はどのようになるかは今のところ、ちょっと見通しのところは答えられる時期ではないのでちょっとわかりませんので答えられません。

次に、85ページに載っておりました負担金の中のイルミネーション200万円の関係ですけれども、これも一般質問と重なって回答していますので重なってしまいますが、イルミネーション、十三、四回やった中で、今後はどのような運営をしていくとか、機材の部分をどうしていくかという話もあります。実際、この運営をしている観光協会の中で企画委員会を設置して、基本的に若手の人、それと私ら年代の中年の方も協力しての運営委員会を行って、設計から実施をして、昨年24日間、12月12日からイルミネーションを実施したものでござい

す。

実施しながら、反省会の中で、もともと若手の方の会員がプロジェクションマッピングというものに興味があり、そして、やはりそのようなことを一度してみたいという思いもあり、プレに向け、1年前のイベントとして今回、そのプロジェクションマッピングをやりたいということを受けて、今回、これを実施したいと思っております。

イルミネーションの関係の用品、備品等々はそのまま保管して、今後どうするかというのは今後協議していくわけですが、平成27年度はこれを実施し、平成28年度のユネスコ無形文化財登録に向けての取り組みなども検討しながら、今回、これを実施したいという考えでございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） 文化振興課関係は2点ほどあったと思います。

まず1点目ですね。後期基本計画の中でその一事例としまして、成果指標の中で資料館がございました。これにつきましては、実は直近の実績値758人につきましては、実は平成22年度、震災の前の数値ということでございましてちょっと古かったんですけども、震災前の数値が758人で、1,300人が後期基本計画の最終年度ということで、こちらの設定につきましては、新しい資料館の整備というのは入っていない中での、できるだけ努力して伸ばしたいという数値だったと思っております。

それと、その資料館につきましては、その目標値とかがあると思うんですけども、新しい資料館を整備となりますと、当然この数字ではなくなってくると思います。一例としまして、この近々ですと、隣の那珂川町と馬頭の資料館が美術館の隣にあるんですけども、こちらのほうは、ちなみに昨年度ですと1万1,000人ほど、300日ぐらいで入っていますので、35人程度ですかね、1日当たりでございますので、最低でも、もし資料館の、私も今の現段階では個人的にはその目標年間1万人は最低でもというぐらいな感じでは考えております。

なお、資料館の整備、基本計画につきましては、過日の一般質問の中で市長より答弁がありましたとおり、計画についてはまとめの最終段階になっておりますので、最終段階になりましたら、とりまとめが済みましたら、適切な時期に議員各位にはお知らせ、御説明をさせていただきたいと思っております。以上が資料館関係でございます。

2点目、ジオパーク関係がございました。概要書の8ページの来年の新規事業として249万9,000円ですか、こちらにつきましては、メインの事業としましては、今年度も実施してきました啓発事業といたしまして、教室を3回ほど計画してございます。

あと、昨年実施しまして好評でしたジオサイトのバスツアーですか、そういうものも引き続

き行って、その啓発事業を行うことで、先ほど議員より御質問がありました検討委員会を、これはジオパーク構想をつくり上げるその案を平成27年度は策定したいと思っております。

こちらにつきましては、検討委員会のほうで10名から15名程度の委員を考えているんですが、その委員につきましては、やはりジオパークというのは、その地形、地質を中心とした、見どころとした大地の公園ということでございますので、やはりそういった何と言ってもその学術的な面がしっかりしていないと、なかなか登録にならないということもございますので、そのうち3分の1程度はそういった専門知識のある方を考えてございます。

それと、ジオパークはそういう学術的な面だけではございませんで、それを大地に乗っております地域資源を生かして、そういった活性化を目指すという面もございまして、そういうことで、現在、市内で活動されています地域の自然保護団体の方とか、そういったいろいろな活動をされている、そういう方も3分の1程度を考えてございます。

残りは、市の関係課の職員と、そのような形で内部的に計画は委託するのではなくて、そういった検討委員会の中で構想をまとめていく予定になってございます。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 大野市民課長。

○市民課長（大野治樹） 市民課では134ページの熊田診療所特別会計について御質問がございました。

基金繰り入れ、議員御指摘のとおりですね。1,650万円、平成26年度、平成27年度同額の基金繰り入れということで、一般会計から1,150万円、基金の取り崩しが500万円ということで、繰入金1,650万円という計上をさせていただいております。

この熊田診療所の経営につきましては、決算審査であるとか、予算の審議であるとか、たびたび御質問をいただいて、その経営状況について御答弁申し上げているところでございます。熊田診療所につきましては、へき地診療所ということで江川、月次地区の無医地区の住民の方に、ほかの地域と公平になるように保険医療の適正な提供ということで設置された診療所でございまして、交通弱者を中心に医療の提供を行っているところでございます。

所長が変わる前までは健全な経営も見られたようでございますので、医療の需要はあるのかなとは思いますが、現段階で年々患者数が減って診療収入が減って、一般会計からの繰り入れをいただく状況になってございますことは事実であります。

久保居議員からも御指摘というか、御提言いただきましたように、所長の人柄等も非常にその地域医療を考えたお人柄でございまして、そういったところをぜひ露出度が上がるように健康福祉課の保健事業であるとか、あるいは地域で出前講座であるとか、そういった露出度をアップするような取り組みを今後中心的に考えていって、ぜひその所長の人柄を地域住民の方

に御理解いただいて、気軽に診療だけでなく、いろいろな相談にこられるような環境を醸成してまいりたいと考えております。

また、市長からたびたび指示をいただいております。現在、訪問看護ステーションが市内に2カ所ございまして、在宅での医療というニーズも増えてくるのかなと思いますので、そういったステーションとの連携を図りながら、江川地区、月次地区の在宅医療にも貢献して、最期は自分の家でのというような診療の提供もできればということで、在宅医療や往診についても需要があれば積極的に打って出たいと考えておりますので、どうぞ御理解を賜りたいと思います。

○議長（佐藤昇市） 福田秘書政策室長。

○秘書政策室長（福田光宏） 久保居議員の御質問でありました平成27年度予算概要の中の8ページの市民とともに歩む行政経営、これは若い市民の方のなすからミーティングとか、我がまち共同推進事業でございます。総務常任委員会でございますので、詳細については常任委員会で御説明をしたいと思います。

○議長（佐藤昇市） 網野学校教育課長。

○学校教育課長（網野 榮） 奨学金の給付事業についてのお尋ねがございました。こちらにつきましては、平成20年度から給付方式が変わってございます。平成20年度から平成26年度まで、実績で65名の者が対象となっております。高卒が30名、短大が5名、大学が30名ということで、累計で65名、金額で2,600万円を給付してございます。

あわせて、その進路、卒業時に地元にとどのくらい帰ってきているかということでございますが、それぞれこの4年間、もしくは高校生3年間を終わって、短大だと2年ですけれども、終わった段階で奨学金受理を終わった後、卒業するときに全て作文を書いて、進路状況なんかを提出していただくようにしてございます。

そういった割合からいきますと、約4人に1人が地元就職をする、市内にですね。それ以外、大学生でありますと市外ということが約半分でございます。それから、高卒の方ですと、その後、また大学に入学するとか、大学生であればまた大学院に行くということで、それぞれその卒業時点で進路等については把握しておりますけれども、その後、就職した後の追跡調査というのは逐次してございませんで推計になってしまいますが、おおむね4人に1人が市内に戻ってきて貢献をしていただいているのかなというところでございます。

この基金、大もとの原資につきましては、先ほど基金の話がありましたけれども、東京の調布市の土地の売却、約3億8,300万円、篤志家の浄財の土地を売却したお金を国債運用ということでやって1.9%、大変当時有利な国債を購入することができました。これを原資としましてひとつづくりのためにということでやっております。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 9番久保居光一郎議員。

○9番（久保居光一郎） ありがとうございます。答弁をひと通りいただきました。これはまず、初めに質問した件についてなんですが、どうかこの後期基本計画、私からすればまことにあいまいな部分もあるんですが、これと毎年度の予算を照らし合わせて、そのときそのときの状況をよく勘案して、今後とも予算を組んでいただきたいなというふうに思っております。

それと関連して、資料館の来館者数ですね、これを私、申し上げましたけれども、市長は今度資料館をつくるんだということでございます。私はぜひ熟慮していただきたいというふうに再三申し上げておきたいと思っておりますけれども、いずれにしろ、山あげ会館の質問とも関連してくるんですが、山あげ会館をリニューアルするわけですよね。ちょっとごめんなさいね、質問が前後しちゃって。山あげ会館のリニューアルとも関連してくる問題でありますから、ここで一緒に再度お聞きしたいと思うんですが。

山あげ会館のリニューアルの設計費だけで1,000万円かかる。恐らく事業費は億ぐらいの。何か商工観光課長の説明は、私が耳が悪いせいか聞き取れない部分があるんですが、かなりの経費がかかるわけでございます。それと、やはり歴史資料館とを、私はこれ、前から言っていますよね、言うことを聞けとかというんじゃないですよ、ただ提案として言っているの、その辺のこともあわせて熟慮して、山あげ会館もなかなか入館者数が増えるのは難しいという中であって、併用でやったらいいんじゃないのかな。

そのときに、これ、山あげ会館がリニューアルのための設計だけで1,000万円をかけるということは、工事が恐らく億を超えるんじゃないかなと、先ほどの改修の内容を聞いていると。であれば、その辺も含めて、たとえ何億円かかっても、私は併設の方向でもう一度熟慮されたほうがいいんじゃないかなと思いますけれども、この辺について市長のお考えを再度伺いたいと思います。

それから、その基金残高の運用について、これは市長のほうから答弁をいただきました。実際に民間で3年間定期にしておけば1%というものもあります。これは普通貯金で積んでおくものの40倍の金利がつくわけでありまして。これは比較的有利で安心な投資ではないかというふうに思いますので、そういうことも我々民間人でもわかるわけですから、そういう情報をもっと入れていただければなど。

もっと大胆に言えば、外国への投資ファンドあたりも、市長の決断次第ですけれども、やはりやってみられてもよろしいんじゃないのかな、そのうちの数億円はですよ。そういうこともないと、なかなかこういう予算なんかを見ると、お金は出ていくことばかり、我々も要求をしたり、行政のほうもそういうことを考えがちですが、やはり実際に入りをはかる、収入をい

かに増やすかということを見ると容易じゃないわけですね。

これ、1,000万円の増やすというのは大変なことですから、そういうことも含めて、この基金の有効な運用ということはちょっと、市長の決断次第ですけれども、ある程度度胸を持ってやるような部分があっても、私はいいのかなというふうに個人的には思っております。

それから、3番目の景観形成作物推進モデル事業、これは農政課長からの説明で、今やろうとしていることは大体私もわかっております。しかし、それだけじゃなくて、やはり遠目から、県道、国道を通るときにその人たちが遠目で見えるようなところ、今の残念ながら森田のところはわざわざ見にいかなければ見られないところなんですね。そういう撮り鉄ファンみたいな方は好きですから、マニアですから、そういうところへ行って列車と風景とを撮りたいという気持ち、それも私は否定するものではありませんけれども、やっぱり景観形成という観点からすれば、もっとふだん、人々が車で通る、それで遠くにでも何でも見えるような、多くの人が見られるようなそういうところも、こういう事業を発展させていったほうがよろしいのじゃないのかなというふうに思います。

例えば、そのウォーキングトレイルの土手ですね、それから落石の山の中に、あれは秋になると紅葉がありますけれども、あれをさらに際立たせるのには、もっとモミジを何本植えていこうとか、あとはウォーキングトレイルのつり橋の奥のところなんかは何も植えていない、花も何もない状態でありますから、ああいうところ、土手なんかもずっと連続してできますから、そういうこともこれから考慮されたいかがかなというふうに思っております。

今度はジオパーク構想でございます。これまた新たに委員会、眠っている委員会も含めてたくさん20近く恐らく委員会あるんじゃないかと思うんですが、委員会、委員会ですんなり委員会だけで本当にいいんかいというふうに言いたくなっちゃいますけれども。

文化振興課、これは昨年、新たに設けられた課で、私はそのときは山あげのユネスコの無形文化遺産登録、そのために特段の命を持って設けられた課なのかなというふうに思ったんですが、ジオパークがぼんと出てきて、これもまた認定を受けるのには、先ほどの答弁だと学術的に確固たるものがなければ指定されないほど難しいものだというようなことを、今、来年のユネスコ無形文化遺産登録に向けて山あげのあれをハード面でどうするかということを考えているのも所管だと思うんですよ。

それとあわせてやっていくんだから、本当に大変だなというふうに、御苦労だなと思いますが、もっとその前に、これは市長が言われているようにあれもこれもじゃなくて、集中と選択であればジオパークをやるのは結構ですよ、だけど、1年留め置いて、文化振興課の職員が全員でハード面については烏山の駅前の整備とか、今回の山あげ会館の整備とか、それはハード

面ですよ。

もっとソフト面で、認定を受けたらば、どういうおもてなしをするのか。来た人たちにどういいう見せ方をするのか。そういうことについてのむしろ山あげの登録に向けての実行委員会みたいなのを、これこそ緊急に立ち上げて検討しなければ間に合わないんじゃないですか。あっちもこっちも、ジオパークもやります、山あげのあれについてはとりあえずハード面だけでちょこっとやりますとか、山あげ会館も古くなってきたから、その改修だけ直すとか、そうするとまた何年かすると、また何か必要になってくる。全然戦略じゃないですよ、これ。

その辺も含めてよく検討されたほうがいいと思う。今、一番集中しなくちゃならないのは何かと言ったら、やはり当面来年に迎えている山あげ祭のユネスコ無形文化遺産登録に対して、どれだけのおもてなしができるか、その山あげ祭を見て、よかったと言って帰っていただける人、そういう人をつくるにはどうかという、そういう仕込みとか、戦略をじっくり考えるべきだと思う。いろいろなものをやるから、職員は何ぼでも大変になっちゃうというふうに思います。これは市長に、この件についても伺いたいと思います。

それから、山あげ会館のことはいいですね。ジオパークもいいですね。市民と歩む行政経営は、これは私、所管なので大変申しわけございませんでした。それから、そば食の回廊について、これは負担金というふうにあります。そばまつり事業をやるのはいいことだと思いますし、だんだん発展していますから大いに賛成でございます。

ただ、ここに書いてある項目が負担金とあります。堀江課長、1市3町で食の回廊の推進協議会をつくっているとされましたけど、じゃあ、この負担金が本市が325万円でしたらば、ほかの3町は幾ら、何でその負担金の率を決めているのかわかりませんが、本市とほかの3町というのは、そんなに人口的に大きな開きがあるわけじゃないと思います。そういうところにもやっぱり300万円前後の負担金を求めているのかどうか。その辺の項目として私はやはり、委託金とか交付金とかというのがふさわしいんじゃないのかな。負担金というと、どうも義務的な、義務を追って負担するというようなふうに解釈されるので、行政的な項目からすると、負担金というのが本当にそれが適正なのか。それについて問うているわけでありまして。

それから、プロジェクションマッピング、これはあまり私、耳が悪いせいかよく聞き取れませんでした。プロジェクションマッピングというのは、私は詳しくわかりませんが、大きく言えば東京駅なんかを照らしたプロジェクトで、いろいろな画像を映し出すあれかと思うんですが、これ200万円というふうに市がどこに委託してやるのか。

大体観光協会なんだと思うんですが、要はイルミネーションが今までやってきたけれども、なかなか大変だからプロジェクションマッピングを使って、それでそのかわりをやろうかなということなんだと思うんです。

やるのはいいんですけれども、どういうふうにするプロジェクトマップ、これ、お金はかけようですから、200万円なら200万円なりのものでできないでしょうし、本当に人が集まってくるにはもう何千万円、億単位のものじゃないと、なかなか今感動しないんじゃないかなというふうに思います。そういう長期的な戦略はどういうふうに思っているのかということが1点。

それからもう一つは、今まで集めてきた、また行ってきたそういうLED関係の照明機材、恐らく100万円、200万円分はあるかと思うんですが、それはどのように有効に活用するように指導されるのか。その辺について再度伺うものであります。

それから、最後は奨学金の給付の問題でございます。これは学校教育課長から伺いました。4分の1程度の受益者、卒業した人が市内に残っているということを知ったので、それはそれで了解したいと思います。

プロジェクトマップ、これはやるのであれば、文化庁の事業で4,000万円以上かけたDVD、市内の伝統行事なんかを収録したやつなんかを、その画像にして、ぜひそういうところで活用したらいかがかなと。50本ぐらい、3年間にわたって780万円、一千三、四百万円、3年目は2,000万円以上というふうに文化庁からいただいて、市が認定してやっていただいた記録ビデオがあるわけでございますから、50本あるとすれば1本80万円以上のビデオ、それだけの貴重なビデオだと思いますので、そういうのこそプロジェクトマップに画像として反映して、大いに活用されたいかなというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（佐藤昇市） ここで申し添えます。質問、答弁は簡潔にお願いします。

大谷市長。

○市長（大谷範雄） 御指摘の来年の平成28年11月には、山あげ行事がユネスコ無形文化遺産に登録予定であります。それに向けまして、この補正予算にも計上させていただきました地域の生活緊急支援の交付金事業を活用した、いわゆる地方創生先行型についても、このユネスコ無形文化遺産登録を見据えた観光客のおもてなしを図るいろいろな事業に取り組んでおります。

そのようなところから、今回の平成27年度の戦略事業については、ユネスコ無形文化遺産を最優先で考えていくということをおひとつ御理解をいただきたいと思っております。

また、資料館についてもお尋ねがございましたが、一般質問にもお答えをいたしました。烏山城築城600年祭を迎える。そういったこともあります。また、あの屋敷町の城下町としての地の利があるということもお話をさせていただきました。ただ、私もこの財源がやはり決め手となりますので、この資料館をつくるにしても、いわゆる身の丈に合った資料館であ

りたいということは同感であります。したがいまして、この山あげ会館との連携も含みながら、その資料館創出に向けて努力をしていきたいなと思います。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 私のほうから、プロジェクションマッピングとイルミネーションの負担金の200万円の増減があったことについての内容でございますが、今まで、先ほども言いましたようにイルミネーション、13年ぐらいやっています、その電気等の用品は過去から引き継いで、そして、今、イルミネーション事業が観光協会の主催事業の主たるものだと思っております、これを実施してきたところでございます。

昨年も10月ごろから先ほど言いましたように、若手が中心にやってきたところでございますが、その中のイルミネーションも大分古くなっております。つくりながら、どんどん電球を入れかえしながら、マジックで色を染めながらつくってきたという状況でございますし、滝はリースでつくったような状況でありますので、もう時代的には古いのが大部分でございますので、今回はそれとまた違った感覚で山あげ会館に映像を映す。

この前も9日に一般質問で答えてありますような映像で建物の凹凸のところに映像をつくって、その映像のつくり方は今、この前も提案がありましたように、つくってあったものを使えば安くできると思いますので、その作品を使いながらどのようなストーリーになるかというのは、これから委託業者に作成してもらいますので、そのストーリーを考えていく中で、内容的なものは今度その中で観光協会を中心に詰めていくかと思いますが、そういう状況でありますので、本年度はイルミネーションにかわるプロジェクションマッピングを実施したいということで考えております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 2点ほど再質問がございました。景観形成につきましては、今までの私のほうの認識が甘いせいだと思いますが、どこか平場で広い面積を探さなくちゃというのも考えておりました。今、御提案のように既存の山を利用したり、もしくは高德議員から前にも御質問いただきました294号線沿いをどうにかならないかと、再度それらの御提案につきまして検討してまいります。

もう1点、食の回廊ですが、今までは推進費として事務費に使うものが那須烏山市が20万円、那珂川町が20万円、茂木町10万円、市貝町5万円、これは純然たる推進費です。これは事務局費といっても過言ではないと思います。

これにつきましては、割合はそば店の出店店舗ですね。那珂川町うちのほうは大体同数なんです。茂木町が3店舗ぐらい、市貝町はありませんので、20万円、20万円、10万円

の5万円ということで了解していただきましたが、先ほど申し上げましたように、今回、ホースの買い換え等もありますので、その既存の金額以外に那珂川町30万円、茂木町20万円、市貝町10万円、何とかありませんかということで負担金でいただく予定でございます。

その3町の負担金につきましては、八溝そば街道推進協議会のほうに各町から振り込まれてまいります。というような運営の仕方をしてございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 9番久保居光一郎議員。

○9番（久保居光一郎） 私だけであまり長く時間をとって申しわけないので簡単に締めます。

まず1つ目の資料館の問題ですけれども、これは山あげ会館のリニューアルを含めて質問をまとめたいと思います。繰り返しになりますけれども、歴史資料館については山あげ会館のリニューアル、ちょうど時期でありますから、それとあわせて熟慮いただきたいと思います。これはもう答弁は結構でございます。

それから、景観形成作物推進モデル事業、これは課長のほうから今、答弁いただきました。私が今申し上げたような山とかそういうふだん市民の方が、また外部の方が外観がぱっと遠目でわかるような、そういうところもどんどん広げていかれたらよろしいんじゃないかというような提案でとどめておきたいと思います。

それから、ジオパークの部分については、やはり山あげのそういうソフト部分について、せっかくできた文化振興課ですから、そちらに選択と集中をさせて、それでもこれ、お客さんが来て満足なおもてなしをするのはなかなか大変かと思うんですが、そういうところに集中してやらないと、それを、あれもこれもになっちゃうから、市長、大変なんじゃないですか、職員が、そういう部分で。いろいろなことを上から旗がおりるので、職員もなかなか大変なんじゃないのかなと。あれもやらなくちゃならない、これもやらなくちゃならないということになるから、やはり集中できない。集中できないからモチベーションも上がらないということになってくるのかなというふうに思います。

それから、商工費のほうのプロジェクトマップ、これはやるのは結構ですが、きちんと戦略を立てて、継続、発展させるためにしっかりと指導していただきたい。

それから、イルミネーションの今あるもの、これも課長、答弁を全然されていないですが、100万円、200万円のものがあります。それも有効に使ったほうがいいですよ、もったいないですから。そのこともちゃんと含んで、行政の担当課なんですから、しっかりその辺は観光協会とも、またそういう関連施設と連携をとってリーダーシップを持って、しっかりやってください。よろしく願いいたします。

あとは、そば街道については、負担金として那珂川町から30万円とか、茂木町から20万円とかというような話ですが、これはちょっと負担金としては差があり過ぎますよね。うちのほうが300万円というのは。だから、やっぱりこれは八溝そばまつり実行委員会みたいなものには交付金という形に振り替えたほうが、行政的な項目としては私は正しいんじゃないかなと。これ、認めないわけじゃないですからね、今回の負担金の。

ただ、そういうふうにしたほうが行政の仕分け的には委託金とか、交付金とか補助金とかってありますけれども、そういう中の枠組みからすれば、負担金でうちのほうが三百何万円、先ほど聞いたならば、茂木町は20万円とか何とかというのでは、ちょっとつりあいがとれないのかな。負担金はあくまでも義務的な経費だと思いますので、これについて。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） うちのほうの割合が随分多過ぎるという御指摘でございますが、ほかの3町は初回の会議のときに那須烏山市でやってくれと、会場は動かさないでくれ。定着しないと八溝そば街道そばまつりが定着しない。それには、1年目、2年目、去年もそうですが、費用対効果というのが、計算しますと去年で9,000万円近くあるわけですね。茂木町と那珂川町と市貝町にはほとんどないわけです。

そういうものも勘案しますと、その320万円は先ほど申し上げましたように、推進費のほうにも行っているわけですから、全体的な街道で使うお金もあります。そば街道だけではありません。ですから、そういう費用対効果、経済効果というのですかね、経済波及効果を考えますと、やはり地元開催、地元で負担がかかってしまうのは多少、多少と言ってもかなり多いと言われれば多いんですが、その辺は那須烏山市に金が落ちてくる、落ちていくというような観点から、ほかの町は50万円ぐらい、30万円、そして、うちのほうは320万円じゃありませんので、去年195万円でも、ことしは二百二、三十万円になると思います。確かに多うございますが、その辺の波及効果があるということで御理解をいただきたいと思います。（「やることはいいんだよ、名目を交付金みたいな形にしちゃったほうが逆にいいんじゃないの」の声あり）これは予算査定でも財政とも協議した結果ですので、性質的な問題でまた財政とも協議させていただきます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） ここで、暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時35分

再開 午後 2時47分

○議長（佐藤昇市） 休憩前に引き続き再開いたします。

10番渡辺健寿議員。

○10番（渡辺健寿） ただいまは4年前を誰しも思い出したことかと思えます。多分常任委員会の予算審査が終わって、午後引き上げた後に災害がやってきたのかなと思い出しております。

簡単に私のほうは答えやすいような項目だけ拾いましたので、簡単にお願ひしたいと思えます。

まず、農業振興費の中で、交付金の一覧表の中には多面的機能交付金ということで2197万2,000円がございます。予算書のほうの農業振興費の中を見ると4,000万円あるんですが、右側の明細を見ますと、この4,000万円の中では2,100万円は含まれないように見えるんですけれども、どこを見ればよろしいのかお伺ひします。

それと、次の46ページ、先ほども質疑にありましたけれども、畜産振興費3,000万円からあります。多分これは2件の方の事業と先ほど説明があったと思えます。これら補助金はこれだけですがけれども、事業費は多分4,500万円ないし5,000万円になるのではないかなと思われまます。これらの草地造成の部分とか、草地整備の部分とか、施設もつくられるんじゃないかと思えます。施設などの内容、Aさん、Bさんは結構ですから、あわせた内容等の説明がいただければと思えます。

あわせて、この事業費は、国、県の100%支出だと思われまます。トンネル事業ですね。これだけ大きな事業を2人の方が取り組むわけでありまますので、市の単独事業も過去には幾つもあるやに見受けております。市の多少の負担、上乘せもあってもしかるべきじゃないかなと思われまます。この資料ではもう予算処理はありませんから、ないのだと思えますけれども、1年間ありますので、その中でそういった含みも読み取れるのかどうか、考え方をお聞かせいただければと思えます。

その下のほうですが、農村環境改善センターにつきましては、先ほど事業内容と設計から内容等説明がありました。これは重複しますのでそこは避けまますけれども、築29年、大規模改修で長寿命化を図る設置条例は廃止方向にあるという説明が以前にございまます。設置条例を廃止する、そして、実質的には公民館としての活用をされているわけでありまます。

ですので、また、概要書でも生涯学習活動の充実を図るためにやるんだということが明確に記載されております。補助事業でつくった施設であるがために、農業施設として、いまだ環境改善センターの運営費、あるいは施設改修などと名目を使っていると思うんですけれども、これらは生涯学習施設として、明確に公民館絡みの科目にいつの日か変える考えはあるのかないのか、伺えればと思えます。

あとそのページの一番下ですが、イノシシ捕獲事業につきましては、報償金と電気柵とある

のは以前からわかっておりましたが、くくりわなの配布というのも、ことしあるやに聞きました。有資格者に対してということでもあります。有資格者何名で、わなは何基ぐらい配布するのか。無料配布と聞き及んでおります。

55ページ、サタデースクールであります。645万円あります。前年の当初予算は494万円ほどであります。かなりの大幅増になっておりますので、受講者が増えるのか、内容が変わるのか、実施日数が増えるのか、そこら辺の内容の説明をいただければと思います。

次ですが、ページが見つからないので申し上げませんが、農業振興費の中で豊島区との都市農村交流の件がありました。また、過日、説明の中で、ことしは宿泊施設も去年よりは多く使えそうなので多くの人数を呼ぶんだという説明がございました。同じような内容に近いと思うんですけども、生涯学習課のほうで和光市との交流もやっております。どこの科目につけても、これに絡む予算が見当たらなかったんですけども、全部和光市負担で当市の負担は全くないのかなと見られます。そこら辺の内容についてお伺いします。

76ページに社会教育費の中で、人生の並木道伐採樹の植樹者氏名記念碑設置工事とあります。このとおり読めば、伐採者の分だけを記念碑としてつくるのかなと思われれます。果たして伐採者分は何名になるのか。記念碑は1カ所につくるのか、個別につくるのか、その辺もお伺いします。

80ページ、施設型給付費負担金1億1,200万円、これの内容について施設なのか運営費なのか、お伺いするものであります。とりあえずそれで。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 第1点目の農業振興費関係だと思います。農業振興費で13万2000円、農業振興全てでは4,192万円ですが、この農業振興費というくくりになっている部分でございますが、幾つかの事業がこの中に含まれてございます。純然たる農業振興費として使う事務費関係、県産農産物を利用した学校給食提供の牛肉、中山かぼちゃのペースト提供関係、それが県産農産物関係です。

それから、もう一つ、中山間地域特別支払交付金、これも農業振興費というふうなことでくってございます。これともう1点、先ほどから出ております食の回廊づくり、この事業費もこの中に含まれてございます。それから、農地中間管理機構問題の管理事業ですね。それもこの農林振興費の中に含まれてございまして、それがトータルで2,000万円という農業振興費のくくりでございます。

次に畜産関係の内容でございますが、個別なお名前はいいということですので、まず、草地等の造成で事業費としまして550万円、草地等の整備事業費といたしまして、伐根したり、そういうものですね。これが800万円、お二人分含めてです。施設の用地造成費、これは牛舎

関係の敷地の造成費480万円、家畜保護施設整備ということで牛舎の付随する施設で1,520万円、それらのもろもろ基本施設がそういうものでございまして、工事費系としますと、それらを合わせまして3,350万円、測量試験費としまして850万円、総事業費では議員御指摘のようにトータルではお二人で4,620万円の総事業費になります。

国庫は50%、県費が25%、市費につきましてはこういう補助事業の規定に基づきまして多少上乘せができるかなというふうに感じております。

それから、イノシシのくくりわなでございしますが、昨年も資格者お一人、3組ずつお渡ししてございしますが、今現在、新しく資格を取った方等もいらっしゃいますものですから、正式な資格者の人数は後で御報告させていただきたいと思っております。私のほうはその3点かと思っております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 私のほうは農村環境改善センター関係でございます。

合併前に烏山町の時代に、烏山公民館も就業改善センターといった時代がありまして、2枚看板で運営を行っておりました。合併のときに、合併を機に烏山のほうは烏山公民館ということで名称を、ちょうど条例改正もあったものですから、それを気に前の管理条例のほうを廃止しまして、公民館のほうの施設のほうの条例に入れさせていただきました。

私も今回、生涯学習課の課長を拝命したときに、以前からの引き継ぎ事項で、農村環境改善センターについても同様の取り扱いができないかということで引き継ぎ事項でありましたので、農政課のほうとも協議したんですけれども、昭和61年に建築されまして29年経過ということで、まだ効果測定の期間がちょっと読めない部分があるので、もう少し待ってくれないかということで、今のところ農村環境改善センターの設置条例で運営をしているような状態でございます。こちらが第1点でございます。

2点目の和光市につきましては、防災協定の絡みがありますので、総務課長のほうからお答えをいただきたいと思っております。

3点目といたしまして、人生の並木道の植樹者の記念碑の建立でございます。以前にどのような形で人生の並木道を管理しているのかということで委員会のほうをもちまして、その中で鴻野山と小河原の2カ所はそのまま残すということで、それ以外のところにつきましては記念碑を建てて、植樹者のほうの了解を得て伐採する方向で検討しなさいよという結論が出ておりました。今年度、平成26年度が8回から9回植樹の小貝川池付近1期と、第3回の植樹地の富士見工業団地内の1期をただいま建碑中でございます。

平成27年につきましては、第5回植樹の自然休養村と第6回のやはり自然休養村で、自然休養村は4回から7回の植樹がありまして4地区があります。そのうちの5回と6回が非常に

地震のときの崩落で遊歩道のほうはかなり破壊されておりまして、その破壊のひどい2カ所について平成27年度、記念碑のほうを立てさせていただいて、植樹のほうの伐採を進めるということで、今回、予算化したものでございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 網野学校教育課長。

○学校教育課長（網野 榮） サタデースクールの御質問がございました。これに対しましてお答えをしたいと思います。

今年度645万4,000円計上してございます。こちらが伸びた理由でございます。ことしの平成26年度、小学生が142名、これは全生徒のうち64%でございます。中学生が108名、45.7%です。こちらの参加者がございました。そんな関係で児童生徒の参加者が伸びているということが1つでございます。

それからもう1点はバスですね。送迎のバスを委託しております。そちらの料金改定等々がございますので、そちらを含めまして150万5,000円ほど全体的に対前年に対して伸びて、ことしは645万4,000円という状況になってございます。なお、バスは11台のルートで走って送迎をやっている状況でございます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 防災協定締結都市和光市との交流事業について、渡辺議員には昨年、農村民泊等で大変お世話になりました。ありがとうございます。これらにつきましては、那須烏山市のほうの負担はございません。87ページに、その和光市の関係で一番上に防災協定都市交流事業実行委員会交付金というものがございます。これらについては、主たるものが少年スポーツの交流事業で支出するものでございますが、これらでそのほかの交流等についても交付金で使用させていただいている。また、先ほど言いましたように、総合調整を総務課のほうで行っていますので、もし、これらの詳細について、また、建設的な意見等については総務企画常任委員会のほうでお伺いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 青木こども課長。

○こども課長（青木 敏） それでは、御質問にお答えいたします。

80ページの施設型給付費負担金1億1,188万5,650円につきましては、予算書の39ページをお開きください。39ページの一番右端の説明欄にちょうど真ん中になります。市立保育施設運営委託事業費ということで2億5,203万8,000円というのがございます。市立保育施設運営委託事業費2億5,203万8,000円、このうちのその欄で19の負担金

という欄を見ていただくと、その中に1億3,951万2,000円というのがあるんですが、その中の1億3,900万円何がしの中の1億1,886万6,000円ということで、この額につきましては、ことし4月、新しく子ども・子育て支援新制度になりまして、認定こども園みどり幼稚園ということになりましたので、みどり幼稚園にことしの4月1日に入園する予定者が現在128名あります。その128名分の保育所の運営費ということで負担金としてみどり幼稚園に支払う金額となっております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 10番渡辺健寿議員。

○10番（渡辺健寿） 2回目です。農業振興費のほうで、農政課長、先ほど説明してくれましたけれども、その農業振興費の2,000万円の内訳はわかっています、私なりに内訳を書き出してあります。農業振興費消費拡大絡み、中間管理絡み、中山間地、とちぎ食の回廊、これらですよ、説明もね。ですが、この2,000万円じゃなしに、83ページに多面的機能支払交付金というのが2,197万2,000円あるんですよ。ですから、この中には絶対含まれてはいないと思うんです。どこで読むんでしょうかという質問をしたわけなので、再度お願いできればと思います。

畜産振興費のほうは、事業内容も細かく説明がありました。国庫50%、県25%という数字もいただきました。市の上乗せも可能であるというところとお聞きしました。ですから、市の上乗せ等も年度内に多少は期待できるものと理解してよろしいのかどうか。再度お伺いしておきます。

環境改善センターの科目を変えるべきじゃないかと申し上げました。条例も廃止する方向であるということでもあります。2回目に就業改善センターも直したんじゃないでしょうかと言おうしていたんですが、説明がありました。そこらは生涯学習課と農政課のものではなくて、副市長あたり、どう考えるかお伺いします。もちろん市長でも結構ですが、考え方をお願いしたいと思います。

くくりわなは3組ずつやったということで、ことしも3組ずつなのか。去年渡した人はそのままで、ことしは対象にならないのかお伺いしたいと思います。

それ以外の件はおおむね了解しました。

それで、先ほども景観形成の話がありましたけれども、ことしは1.2ヘクタール、170万円、あと滝地内がこの予算の範囲内というところかなと思います。新たな場所も考えるといったこともちょっと触れられましたけれども、新たな場所も結構ですが、まずはこの今、言われた2カ所、これを固定して継続してもらうのが前提じゃないかと思われます。

初年度にやられました大面積、6ヘクタールも7ヘクタールもやったほうは、農政課が担当

したからこういうことになっちゃったのかなと思うんですが、ブロックローテーションが中心になっちゃいまして、本当の目的である景観形成のほうの点が薄れてきてしまったのではないかと思います。

この辺も新しく追加できるのであれば追加しても結構ですが、あくまでも継続できるということを前提に追加する場合は追加していただきたい。こう考えるんですが、ここらも農政だけじゃなしに、庁内一体となって商工観光もちろん、これも副市長、ついでに一緒にお願いします。

もう1点、もっと広域ということで、道の駅の話、一般質問でもありました。昨年も事業項目にはうたってありました。しかし予算はゼロでした。市長説明の中では、昨年ですよ、主要政策の1の2で項目はあるんですけども、どうなんでしょうかという質問に対し、補正予算で実現化を目指してピッチを上げるということでありました。ことしもつい数日前に一般質問でありました。昨年は多分補正なかったと思うんですけども、補正をとってでも実現化を目指し、前向きの説明は先日、一般質問であったというふうに見るんですけども、ピッチを上げると、去年と同じ説明になるのかなと思うんですが、その辺を再度お伺いします。

○議長（佐藤昇市） 國井副市長。

○副市長（國井 豊） 農村環境改善センターの科目の話だと思いますが、御理解いただいておりますように、実質的には民間活動がほぼ100%というようなことで、現在、活動されておりますので、それらに向けて既に烏山地区の以前、就業改善センターと言われていたものが、既に公民館の中に取り入れてやっておりますので、こちらにつきましても、ぜひ公民館費という中に入れて予算措置をしていきたいというふうに思っております。

全市花公園構想であります。前にも担当課長のほうから説明がございましたけれども、小埜駅周辺あるいは先ほど久保居議員のほうからもありましたが、トンネルの付近の猿久保付近ですかね、この辺で土地改良関係のブロックローテーションという形でやってまいりましたけれども、新たに昨年、滝の駅周辺等もやっております。さらには、以前から生涯学習課が主管となりまして、地域あるいは公民館事業の一環ということもございまして、花いっぱい運動も展開されております。

年々これらの参加団体も増えてはいたのではあります。定着しつつありますし、さらには土地改良区などにぜひ呼びかけをしまして、自主的にやっていただくようなそういう方法も1つの方法なのかなというふうに思いますので、地道な活動を続けながら、市内に花が咲き乱れるような、そういうPRといたしますか、手法等も取り入れていきたい。全庁で取り組めればというふうに思っています。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 多面的機能関係でございます。多面的機能の推進員事務費関係が25万円ほどありますが、大きなものに関しましては藤田地域の資源保全会670万円、荒川南部380万円、興野ホテル里づくり環境保全会287万円、神長地域の自然を守る会352万円、月次保全会96万6,000円、曲畑地域環境保全会382万円というような形で、各地域6地域で展開される事業の経費となっておりまして、先ほどの83ページの内容につきましても、これらが全て事務費関係も含めた数字というふうに御理解をいただきたいと思っております。

それから、くくりわなにつきましては、市内で現在平成26年度27名でございまして、この方には先ほどお話ししたように3組ずつお渡ししてございます。平成27年度につきましても、まだまだ講習会で資格を取れますので増えるかもわかりませんが、予算上は確保できてございます。

それから、景観形成は副市長、私のほう……。道の駅は……。よろしく願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 道の駅につきましては、一般質問でもお答えをいたしましたけれども、地方創生戦略の中で明確に位置づけを行いながら検討していきたいと思っております。

○議長（佐藤昇市） 10番渡辺健寿議員。

○10番（渡辺健寿） 間もなく卒業する農政課長に3回も同じことを聞きたくないんですが、多面的機能とかいろいろ説明ありますが、最初も2回目も言ったとおり、多面的機能の支払交付金2,100万円はどこの項目で読めばいいんですかと、これだけを聞いているんですけども、内訳や何かは結構です。ほかの部門は大体内訳を書き出してありますからわかっています。それだけ再度1点。

あと、副市長が答えてくれた環境改善センターについては、たった4億円程度の農林予算の中に、大きく公民館の改修費が5,000万円も含まれているわけでありまして、農林予算を見れば大きそうに見えるんですけども、実質は違いますよということになっています。農業関係者のほうからすれば、予算の割に中身は違うんじゃないのというとらえ方になろうかと思うので、もう今は直す予定もないし、できないんだと思いますけれども、早目にこれはすっきり生涯学習の部門に移しかえる必要があるのではないかな。できないことはないと思いますので、よろしく検討いただければと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 大変失礼いたしました。予算書でいきますと46ページになります。5目の農地費の中の農地振興費3,001万8,000円、その中にこの多面的機能の2,

000万円が入ってございます。よろしくお願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 17番小森幸雄議員。

○17番（小森幸雄） 平成27年度の予算の中なんですけど、ずっと私も予算書の中で聞きたいこと、何点かあったんですけど、大体ほとんど聞かれてしまったというよりも、聞いていただいたので、1つだけ、これは議長にも諮らないといけない部分かとは思いますが、ここでなければ、教育長に聞けない部分がございます。

実は私、文教なんですけど、いわゆるこの予算の審査、これから付託されると思います。そういう中で、審査は教育長が出席しないんですよ、ずっと、今までも。私は行き会ったことがないんですけど、何かで欠席されたのか、それはそれとして、もし出てくれるのならばそのときにでも構わないんですけど、実はそんなに時間かかりません。

そういうことで、ずっと教育行政の中で、今回この予算にもありますように、学校教育の中で平成27年度、南那須中学校として新たに中学校が統合されてスタートをします。記念すべき年、目玉と言えば目玉と申し上げていいかと思います。

そういう中で、下江川中学校が今度は2億7,000万円の巨費をかけて新校に、平成28年度開校で改修に入ると。こういった指示でもあるわけですね。そういう中で、これまで統合、旧町時代に端を発して、この旧烏山町の時代から統合が進められてきたわけでありまして、合併して10年で最終的な目標といいますか、とりあえず一段落する年だというふうに理解をします。

こういう中で、これまでの統合に対するいろいろな意味での苦労があったように思いますが、新生南那須中学校がスタートをすることにあって、教育のトップとして教育長は、この新生南那須中学校のこれからの校風づくりといいますか、学校づくりにどういう思いで、どういう期待をして、この新しい中学校を推し進めていくのか。そういう考え方が教育長の胸のうちにありましたらば、ぜひここでお聞かせをいただいて、私どももまだ任期はあと3年弱ありますから、そういう中で学校教育に少しでも、教育界の思いを議会としても推進していければなど。こういう思いもありますので、ぜひお聞かせをいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 池澤教育長。

○教育長（池澤 進） 旧烏山時代からの学校統合を下江川中学校、荒川中学校の統合で一段落するというお話をいただきました。まさにそうあってほしいと、これからは新しく学校がつくられるというような方向に動けばいいなという思いがいたします。

私の学校統合、烏山地区は6校でございました。58歳からスタートいたしました。当時の町長、そして議長、議員の皆さん方に大変お世話になりました。おかげさまで、小学校が複式学級の解消、中学校は学級が交替できる。複数学級編成ができる。これに努力してまいりまし

た。

下江川中学校、荒川中学校もまさに同じ考え方で、地域の方々の苦渋の選択と議会の皆さんの、そして執行部の皆さん方の努力で、おかげさまで平成27年の4月1日、新校としてスタートいたします。

子供たちには、今非常に、先日お話し申し上げましたが、大人でさえ生きにくい世情でございます。子供たちにとって、私どもが大人のサンプルとして生き方を子供たちに示せない。その中で、学校長、そして先生方に基礎、基本、中等教育の学力保証、たくさんしていただいて、自分でこれからの荒波をくぐり抜けて、自分の理想に向かって邁進できるような基礎教育、いわゆる中等教育に邁進できるような教育環境を整えたいと思います。

あわせてその基本となるのは文武両道の教育であります。これからもその姿勢を崩すことなく努力してまいりたいと思っておりますので、御理解をちょうだいできればと思います。

以上でございます。

○議長（佐藤昇市） 17番小森幸雄議員。

○17番（小森幸雄） 教育長の思い、確かに私どもの心の中にも伝わってきつつありますが、今までも下江川中学校と荒川中学校の学校間の統合に向けての連携は、かなりしてきたはずであります。いざこれから同じ教室の中で、下江川中学校、荒川中学校の生徒がこれからはずっと一緒にいるわけですから、そういう中で融合、融和の関係はもう全て大丈夫ですと。こういうとらえ方でよろしいですか。それだけ聞いて私の質問を終わりたいと思います。

○議長（佐藤昇市） 池澤教育長。

○教育長（池澤 進） これまでの学校統合、何校か皆さん方の御理解を得て推進してまいりました。そのノウハウを生かしながら、PTAの方はPTAの交流、そして新年度に向けたPTAの組織づくりについて努力していただきました。

子供たちにとっては、部活動、そして生徒会活動、あるいは学校行事等を計画的に履行しながら、きょうを迎える足がかりをつくってまいりました。子供たちは大人以上に一緒になって、本当に胸を踊らせて、教室の中では最初は中学生独特のシャイな部分と気恥ずかしさが表現されるでしょうが、もう1日の後半には、お父さん、お母さんのところに駆けていくことなしに、子供たちと一緒に荒川中学校、下江川中学校の子供たちが手をとって、お父さん、お母さん、先に帰っていいよと、そういうような雰囲気は必ずしも出されるのではないかと考えております。

私どもも精いっぱい努力をしてまいりました。議会の議員の皆様方にも見守っていただきながら、子供たちを応援していただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

以上です。

○17番（小森幸雄） 了解です。

○議長（佐藤昇市） 18番平塚英教議員。

○18番（平塚英教） それでは、当初予算に対する質問をしていきたいと思います。まず最初に、平成27年度の当初予算でございますが、3月定例議会の初日に、地方創生予算絡みの一般会計補正予算が議決されました。その中に、消費喚起と地方創生先行型と2つあったわけなんですけれども、とりわけ地方創生先行型の予算は、この当初予算の中には関連予算は全くないというふうに考えていいのかどうか。この平成27年度の市の当初予算の中に、地方創生絡みの予算は入っているのか、入っていないのか。そのことをお聞きしたいなと思います。

2015年、平成27年度は、国を挙げて地方創生元年の年でございます。本市においても、那須烏山市の人口ビジョンと那須烏山市の総合戦略を策定するという予定でございますが、市長は年度末を待たずにこれを策定すると答弁されましたが、本市の総合政策審議会に諮問して、この総合戦略の中身の検討をするということでございますが、同僚議員からもいつも出ていますように、いろいろなところからこの人口減少対策についての意見を聞かれることは確かに結構なことだとは思いますが、しかし、今後、この那須烏山市が生き残りをかけていくために、果たしてそういう市がリーダーシップを発揮するということなしに、ただ、諮問するというような計画の策定の仕方でいいのかどうか。私は甚だ疑問でございます。

皆さんも御存じのように、那須烏山市はこの栃木県内の市町村の中で一番人口が少なく、財政規模も弱いと。そして高齢化も進んでいると。こういう状況の中で、あの佐野市でさえ、20年後には10万人を切ってしまうと、こういうことに危機感を感じて3月中に市長を本部長とする佐野市の市創生本部を立ち上げて、副市長、教育長、政策担当部長を初め、オール佐野市体制で2060年ですよ、2060年を見据えた長期人口策定ビジョンと市の総合戦略を策定するとしております。

こういう点からしますと、どうも我が市の気迫と申しますか、この地方創生に対する取り組みがどうなのかなというふうに思えてなりません。これ、一般質問の続きのようになってしまっていますが、基本的にここで質問したいのは、我が市も直ちに那須烏山市創生本部を立ち上げていただきたいなというふうに思うんですが、これについてはどのようにお考えなのか、お示しをいただきたいなと思います。

2つ目は、29ページの防災行政情報通信管理費ですね。1,211万8,000円でございますが、これは前の質問にもありましたように緊急告知ラジオの導入というようにございまして、これについては新聞報道でも1台1万4,000円するものを250台買って、独居老人や災害時要支援者、自治会長らのほか、南那須病院や小中学校、山あげ会館など公共施設に無償貸与、そして災害時要支援者の介護者に1,000円、市民には2,000円、事業者と

2台以上を希望する市民には4,000円で有償で配布する。

こういうことですが、250台のうち200台は無償で配布するわけですから、残り50台しかありませんね。これはとりあえず試行で始めると。FM栃木を活用してラジオの放送局を使って避難情報や緊急情報を流すということですが、今後はこれを本格的に推進していくというような考えで受けとめていいのかどうか。その辺の考え方について、もう一度説明を求めたいと思います。

次に、38ページ、新規事業ですが、ファミリーサポートセンター事業費325万3,000円ということですが、これはいわゆる学校放課後のそういう対策事業とは違って、進めるような内容のようにお見受けするのでございますが、その事業内容はどのようなことをやるのか。そして、この事業は、市が直営でやるのか。それとも、業者のほうに委託をしてこれを進めると。こういうような考えなのか。その辺の内容についてお示しをいただきたいと思います。

次に、これは前後して申しわけございませんが、37ページのほうで高齢者福祉ですよ。これも一般質問でもやったんですが、一般質問をやった後、特に認知症については矢板の例を取り上げて、こんなように矢板ではやっていますよねと、本市はどうするんですかと質問したんですが、担当課のほうから、那須烏山市は決して矢板市には負けていないとお叱りの言葉をいただきました。これは極めてありがたいことで、今後とも頑張りたいなというふうには思うんですが、これは地方創生と同じなんです。担当課のほうでは職員一同一生懸命やっていると、ほかの自治体に負けないようにやっているというのはありがたいんですけども、それが市民にどういうメニューでどのようにやられているのか。

今回の認知症対策というのは国家戦略なんです。国家戦略で新オレンジプランということでやっているわけなんです。その辺が特に栃木県の中でトップクラスに高齢化が進む那須烏山市でございます。恐らくそういう流れでいきますと、国の平均では発症率が65歳以上の5人に1人だと、700万人に達するだろうと言うんだけど、うちのほうは果たして単純に5人に1人なのかどうか。単純に5人に1人だとしても、それを支える体制は本当に大変だと思うんだよね。

だから、そういう意味で、市の大きな戦略として打ち出す必要があるんじゃないのかなということで、取り上げているわけなんで、ほかの町に負けないでやっているのは本当にありがたいので、それをもっと市民にわかるように、こんな戦略でこんなふうにやっていますよと、20年後も30年後も心配ありませんよというような中身を示してほしいなど、このように思うんですけども、これについても一度御答弁をいただきたいと思います。

また、先ほどジオパークの構想の問題も出ましたが、これはどうしても何かそういう博物館

をつくるのかなというところに頭がいつってしまうので、ジオパークの中身については、私も市のいろいろな資源をPRするという意味で非常にありがたいし、我々も誇りに思うし、これからも活用できるなというふうに思いますので、このさまざまな市民が取り組んでいるジオパークのソフト事業、あるいは構想、こういうところに最大限に支援をしていただきたいなということをお願いしたいと思うんですが、ことしはとりあえず検討委員会を立ち上げるということでございますので、今後の将来構想についてはどんなふうに考えているのか、お示しをいただきたい。

次に、山あげ祭のことでございますが、60ページ、ここでは、前は商工観光課の中に山あげ保存会の事務局があったんですが、これが文化振興課のほうに今は来ていますよね。それはありがたいので、ユネスコ無形文化遺産登録、これも本当に市民の一人として願うところでございますが、ただ、ユネスコ無形文化遺産登録されても実際に山あげを上げる体制がこれからもきちんと保証されるかどうかと、ここが一番大事なところでございます。

そういう意味で、この間、文化庁長官の表彰がありましたけれども、そのときに受賞者の島崎さんも言うておりましたが、これからも永続的に山をあげるような体制整備には私も尽力していきたいというふうに言いました。そういう意味で、行政のほうとしてはこの山あげのボランティアというか、人材バンクですね、その支援を支えるような体制をどんなふうに支援していくのか、この辺の考え方をお示しいただければと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 地方創生に関する御質問をいただきました。一般質問にかかわることもございましたけれども、期間がどうかというような御質問がありましたけれども、5月の日本創生会議の発表以来、一番危機感を持ったのは那須烏山市であることをぜひ御認識をいただきたいと思います。

というのも、7月の市長会において、私は直ちにこの検討会を早速県レベルで立ち上げるべきだという提言をしたのも那須烏山市でございます。早速副市長、町長レベルでもっての検討会議が立ち上がりまして、今、そういったところに県レベルで取り組もうというような雰囲気をつくっております。

そういうことから、いち早く若手職員に関する、ここなす那須烏山のワールドカフェを立ち上げさせてもらいました。あわせて民間の皆さん方の若い、このまちおこしに活発な意欲のある皆さん方も今、御参加をいただいている。こういった経過でございます。

そして、この内部については、この対策本部というのは、当然これは私ども創生本部として私が本部長になって立ち上げていきたいと思っております。あわせて全庁体制をとるためには、若手

職員の力が何よりも必要でございますから、各課を代表する若手職員のワーキンググループ、これも設置したいなと思っております、私を初め全庁体制でこの問題には取り組む。このようなことを明確に申し上げておきます。

○議長（佐藤昇市） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 緊急告知ラジオの納入の関係でございますが、予算は54ページの災害対策費のところの防災無線等管理費ですね。こちらの中に入っているものでございます。この事業は3年以上の契約が必須ということになっておりますので、その3年の間に、これは非常に有効である。これが最高の伝達ツールであるというようなことになれば、拡充を進めていきたい。また、そのようなことで、まずは防災に携わる人、中心になる人、そちらの方に配備をさせていただいて効果を実証するというか、それが本番になるかもしれませんが、そのような形で調査を進めて本格導入に向けて進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 福田秘書政策室長。

○秘書政策室長（福田光宏） 平塚議員の先行型の予算についてお答えいたします。

基本的には、先行型は平成26年度3月補正でやっております。先日、御質問があつて答弁がちょっとうまくなくて申しわけなかったんですが、関連事業としてはまだ正式に国から来ていないんですが、子育て関係で保育料の軽減とかいろいろあると思うんですが、そちらのほうに資料を見てみると入っているみたいです。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 青木こども課長。

○こども課長（青木 敏） それでは、予算書の38ページ、ファミリーサポートセンター事業費325万3,000円について御説明を申し上げます。

ファミリーサポートセンターは、子育ての援助を受けたい人と、援助を行いたい人から相互援助会員組織を組織いたしまして、病気の子供の送迎や預かりのほか、保育施設開始前や終了後の預かり、また、保育施設までの送迎とか保護者の病気や休養の場合の預かり等、日常子育てに対する多くのサポートを行う事業でありまして、会員間で相互に支援を行います。

本市としては、その支援活動等における会員間の連絡の調整とか、いつでも相談に乗るとか、会員間の援助を行うため、市として臨時職員を雇用いたしまして、市直営でその連絡調整等を行うことになっております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 樋山健康福祉課長。

○健康福祉課長（樋山洋平） 高齢者福祉の関係の認知症対策についてお答えしたいと思います。

ます。

認知症対策の予算につきましては、介護保険特別会計の171ページにあります認知症施策総合推進事業費で予算は計上しております。この間の矢板議員の一般質問でも認知症対策についてはお答えさせていただきました。認知症の対象がどのぐらいいるかというのは、実際の人数はつかんでおりませんが、国の推計からしますと（「内容はわかっているからいいよ」の声あり）では、その内容で（「どういうふうにこれから打ち出すかという話です」の声あり）大変PRが下手で、市でやっている部分を市民の方にお知らせしていないのは大変申しわけなく思っております。

認知症対策としましては、介護予防大会とか認知症サポーター養成研修などで認知症対策をやっております。認知症サポーターはもう3,000人を超える方が受講して修了しております。その辺について多分担当のほうは進んでいますというようなことで申し上げたのかなというふうに思っておりますが、何分地道にやっております。やっていないのが現状でございますので、これからはもうちょっとPRして市民にお知らせしながら、参加しない方にも、認知症対策の必要性を訴えていきたいと考えております。

○議長（佐藤昇市） 両方文化振興課長。

○文化振興課長（両方 裕） 文化振興課から2点ですね。まず、ジオパーク構想でございます。こちらにつきましては、平成27年度は先ほどもお答えしましたように、構想案を策定ということで、平成28年度につきましては、この構想案に基づきまして具体的にその事業を展開していくと。事業と言いましても、具体的にジオサイトといいますか、その見どころを決めまして、看板を設置したり、そういうことでボランティアのガイドさんを養成したり、あとはそういったジオサイトのツアーを行って行くんですが、その運営主体につきましては、各市のいろいろな運営協議会の方にお集まりいただいて、いわゆる行政主体というよりも、ぜひ地域の資源の有効活用でございますので、そういった地域で活動している方々にお集まりいただいて、それを推進していく。そういう協議会を設けて推進をしていながら、登録申請というスケジュールでございます。

2点目の山あげ行事の保存継承につきましては、今年度山あげ行事の一番の6町輪番制の体制づくりといいますか、その継承ということで、保存会におきまして、その支援体制というのが確立されました。これが非常に重要なことだと思っております。

今後はこの保存体制というかそれができましたので、具体的にどういった支援をしていくかということを含めていながら、継承に努めてまいりたいと思います。あわせて、行政側としてのサポートといいますか、人材バンク等の支援につきましても、その支援策の中で主に検討をしてまいりたいと思っております。

○議長（佐藤昇市） 18番平塚英教議員。

○18番（平塚英教） そういうことで、地方創生元年の国を挙げてのこの事業の中で、那須烏山市においても、生き残りをかけて本気でやっているんだよというのが市民に伝わるような取り組み方というか、そういうものを進めていただきたいなど。やっと市長のほうから、創生本部を立ち上げるとか、全庁体制でやるというようなお話は伺いましたが、これはいつまでにこれを立ち上げる予定でおりますか。

それと、あくまでも学校統合のときも申し上げましたが、諮問は諮問ですからね。みずから本当に創造するんだという、どんな火の粉を浴びてもどんな苦勞をしても、本当に頑張るんだというのが伝わらないと、市民はそれに参加しませんからね。

下野新聞にも、地方創生で本格的な競争にと言われているんですよ。地方創生をめぐる自治体間競争だと、他の自治体に負けないような取り組みを本当にそのやろうとすることが伝わらなければ、市民はその市のアイデアや企画、その実行というか、そういうものに協力してくれませんから、そういう意味でも市民にも議会にも、市の執行部の本気度が伝わるような姿勢を打ち出していきたいなどということを、私は前の質問でも訴えましたし、今回のこの提案でも訴えたいわけなんです。その本気度、そこをもう一度確認をしておきたいと思います。いつまでに、この創生本部を立ち上げるのか。これだけ明確にしていきたいと思います。

次に、防災行政無線でございますが、これはこれでいいと思うんですけども、問題はひとり暮らしのお年寄りがどんどん増えていて、それで緊急通報装置とかそういうのも普及しているんですが、何か障害のあれがなければ、それが配布されないんですよ。そういう意味で、健康なお年寄りでもいつ何がどうふうになるかわかりませんので、その辺も総務課だけでなく各課横断に、独居老人等のできれば双方型の緊急対策を進めていただきたいと思うんですが、それを答弁いただきたいと思います。

次に、地方のやつは地方創生との絡みでわかりました。いずれにしても、ほかのまちからおくれているなんていうことは私は1回も言ったつもりはないので、その事業内容についてもよくお聞きしました。問題は、そういうメニューとか市の取り組みとか、そういう体制とか、そういうものをぜひ市民の皆さんがわかるような、これ、国家戦略と言っているんだから、それをこの市ではどう展開しているのかというのがわかるような打ち出し方をやってもらうのと、あと市長、これから10年先、20年先、それ以降もそういうような、認知症に限らず高齢者の医療、介護、福祉、こういうものの需要が高まると思うんですよ。前の一般質問でも申しましたように、これはそういう意味では成長の分野なんだよね。それを支えるスタッフをつくっていくことも雇用拡大の大きなテーマになると思うので、その辺も含めて体制づくりには万全を期していただきたいと思います。

次に、ファミリーサポートセンターの問題でございますが、中身はお聞きしましたけれども、何か個人個人で請け負ってもらえるような組織を立ち上げて、そこに行政のほうが委託をして、いろいろなことをやるというような認識でいいんですか。それとも、どこかの業者に全てそれを委託して、そのどこかの業者がその手配をするというようなイメージなんですかね。そこ、ちょっとさっきの説明ではよくわかりませんでしたので、もう一度その辺を、さっき言ったでしょう、私。市直営でやるのか。それとも、どこかの業者に任せるのか、その中身について説明をお願いしたいと思います。

ジオパークについてはわかりました。

山あげ祭の関係については、今後とも、その人材体制の支援については行政のほうでも御支援をいただきたいなと思います。

さっき質問を忘れたんですが、烏山のプール施設は解体整備が終わりました。ことしの予算にはありません。しかし、空いている土地があるわけですよね。あの土地については今後、駐車場等には使えるかなというふうには思うんですけれども、プール解体後もあの敷地についてはどのような利活用を考えているのか、お示しをいただきたいなと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） 創生本部の設置、またそれに関連するワーキンググループ、これの設置については、平成27年度早々に設置を考えておりますので御報告申し上げます。

また、先ほど地方創生のひとつづくりの分野で、介護、福祉、医療分野に触れられましたが、まさにこれからの高齢化社会あるいは少子化社会の中で、この分野のひとつづくりは大変重要な位置づけにございます。市を挙げて、そのようなひとつづくりに向けて努力をしていきたいと思っております。

○議長（佐藤昇市） 清水総務課長。

○総務課長（清水敏夫） 緊急告知ラジオの件に関しましては、今回、導入するものにつきましては拡張機能といいまして、先ほど平塚議員が言っているような将来的には取り組めるのではないかな、そのようなことでの先々を見据えているものもございまして、それら、今、技術は日進月歩でありますので、速やかに判断をしていきたいと思っております。

以上です。（「各課横断的には。ほかの課との関係も含めて」の声あり）導入の対象者、また先ほどの貸し出しというか、有償での単価等についても、今後、詳細は検討していきますので、これらについてはうちのほうだけじゃなくて、福祉サイドとまた連携をとってやっていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（佐藤昇市） 青木こども課長。

○こども課長（青木 敏） それでは、先ほどのファミリーサポートセンターについてお答えをいたします。

まず、市は、ファミリーサポートセンターの会員を募集いたします。募集した中で、市は援助を受けたい人と援助をしたい方の仲介役を行うということで、当然会員になった方に対しては子供を預かる場合の講習会なんかも開いて、安心して子供を預かったり、育てることができるような形で、市はその仲介役ということで業者には委託はしません。市が責任を持って行うということです。よろしくお願いいたします。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 質問のありました烏山プールの解体後の利活用でございます。今のところ、隣接している烏山公民館のほうの駐車場として当面使わせていただきたいと思います。ただ、中央公園の検討委員会のほうの答申がまだちょっとはつきり出ておりませんので、そちらに従って管理されるかと思えます。ちなみに管理のほうは普通財産なので、総務課になります。

○18番（平塚英教） 了解。

○議長（佐藤昇市） ここで暫時休憩します。

休憩 午後 3時59分

再開 午後 4時08分

○議長（佐藤昇市） 休憩前に引き続き再開いたします。

15番中山五男議員。

○15番（中山五男） いつも予算の審議の質問は最後に私になっているようでして、今回も私、質問項目が多いものですから、もう既に執行部のほうへ渡してあります。簡潔明瞭に、余計なことは一切私は答弁を必要としないので、簡潔明瞭な答弁をお願いしたいと思います。

まず、予算の概要書というのはこの予算書と一緒に渡していただいております。ここに記載されているのは一般会計のみでもって、特別会計についてはほとんど記載されておられません。ことしの予算総額が幾ら程度ですよ。これ、もうちょっと、この一般会計並みに、特別会計についても記載できないものか。ぜひこれは来年からお願いしたいと思って、これ1点入れました。

次に、1ページ開いていただきますと、一番下のほうにグリーンニューディール事業とありますね。これは別の資料や何かを見ますと、健康福祉センターと烏山中学校、現在の下江川中学校、これを太陽光発電で各施設に電力を供給するという事なんです。実際、この3つのそれぞれの施設に使う電力の何割ぐらい補えるのか。そこで、今回、7,850万円もかけて

費用対効果はどうか。何年で回収できるのか。

これなぜ、私、質問するかというと、平成22年に図書館にも同じような装置をくっつけましたね。くっつけたら、あれ、約30年もかかりますよというんですよね。実際、実績を見ても、370万円ぐらいの電力は発電しているようなんですが、2,000万円を超える費用を投資していますから、なるほどそれでは30年以上もかかるのではないかなと思ひまして、このことを質問したわけです。

次に、これも同僚議員が質問した中からですが、今度は予算書、歳出の45ページの6款1項3目、これ、人・農地問題解決加速化支援事業というのがありますね。今年度新しくできた事業なものですから質問するわけなんです、931万9,000円、これは稲作の所得補償に870万円、さらに人・農地新事業にわずか61万9,000円のようなんですが、もうちょっとこれ、詳しく、簡単に説明してくれませんか。それで、これは平成27年度で終わるのか。来年度もまだまだ続くのか。この見通しについてお伺いをいたします。

次に、46ページの6款1項3目、景観形成作物モデル事業、これも同僚議員がもう既に質問しております。去年はあれほど大失敗したのに、懲りずに何でことしもまたやろうして予算計上したのか。懲戒処分にするべきじゃないかと私は思っていますよ。これはちょっと冗談なんです、これは農政課でなくて生涯学習課でも花づくり事業というのをやっています、20万円ほどの予算を計上して、各自治会とか老人クラブに支援していますね。これを上乗せをして、この事業を拡大したほうが私はもっとも効果上がるのではないかと。今回も小埜の踏み切りの手前あたりに、またこれ、何を植えるのか知りませんが、あそこも湿原ですから、あそこで成功しようというのは非常に難しいのではないかとと思ひまして、これを質問したわけです。

次に46ページ、同じ6款1項4目、これも渡辺議員が質問しました畜産担い手育成事業ですね。畜産の関係の補助事業というのは久々ですね、何年ぶりだろうか。久々に私もこの事業を見たんですが、これはぜひ市も畜産関係の事業は大切ですから、この補助事業上乗せ、ぜひ主張するべきと思ひ、私もこれは質問に加えておりました。

次に、46ページの6款1項5目に農地中間管理事業補助金というのがありますね。これも新しい事業で、離農者等への補助金770万円ですね、3日ほど前の下野新聞にも大きく大々的に広告が載りましたから、私もこれ十分承知はしてはいるんですが、これは今後もまだまだ当分の間、続くのかどうか。今年限りでということはないと思ひますが、この辺のところ、お願いします。

次に、同じく46ページの6款1項6目、改善センターの工事費として5,294万円あげておりますね。これはみんな、この建物の修繕費というふうに理解をしましたが、お願いした

いのは、改善センターの裏側に150平米ほどの空き地があります。いつも草が生えています。これは農産物加工施設の前のところですよ。ここをぜひ舗装して、駐車場にでもすれば有効利用できるのではないかと、しばしば今の改善センターの前の駐車場では不足していることがありますので、ぜひこれはすべきだと思ひまして、1項目入れたわけです。

次に、46ページの6款2項2目に元気な森づくり事業、これも同僚議員から質問がありました。これ、効果上がっているんでしょうか。実は私のところへ去年、ある山林の所有者から、私はやりたくないのに農政課のほうから、ぜひそこをきれいにしてくれというような要請があったんだ。うちのあたり、そんなイノシシなんかいないよというようなわけで、何かどうも農政課のほうでは予算消費のためにやむなくあっちこっち見つけて、この事業をやっているのではないかなと感じているんですよ。

それなら、建設課長と協議をして、あの道路沿いの支障木のようなああいうところを切れなものでしょうか。ここらのところをぜひ検討してもらいたいと思っております。

次に46ページの7款1項、これも同僚議員が質問しております。工場敷地の崩壊復旧工事費ですね、300万円。これ限度額ということなんですが、これ、実際どのぐらいの工事費がかかって、そのうちの300万円をこの限度額として交付するのか。簡単でいいですよ。

次に49ページ、7款1項2目、これもただいま久保居議員が質問したところなんですが、これは担当課長、そうしますと、今年度はもうイルミネーションは廃止すると、やらないと。そういうような考えなんですか。そのように理解してよろしいのか、お伺いをします。

次に50ページの7款1項5目、一般観光施設の運営費ですね。去年も890万円あります。ことしも950万円あります。これを簡単でいいですから、内容を説明してください。

次に、50ページの7款1項5目に、山あげ会館の設計委託ですか、1,000万円もあげていますね。これ、私、山あげ会館を修理するのはいいんですが、ここへ歴史民俗資料館を併用できないものでしょうか。今、観光協会のほうで、左の入って1階の奥のほうにおみやげ品なんか売っていますね。あそこはあんまり売れないと思ひますので、あの部分と2階にも広場がありますね。この辺のところには私はこのまちの大切なこういった資料を展示すればそれで十分ではないかと。

それで、毎年この内容を変えるんですよ。今、七合中学校に置いてあるんでしょう。四半期ごとでも何でもいいですから、そうすればまた、新しいお客さんも来ますが、いつも同じものだから、ああ、もう見たから行っただけでしょうがないということになりますので、ぜひ内容物を変えるような形で、山あげ会館をそんな方法でやれば、この山あげ会館自体の入場者も増えるのではないと思っております。

次に63ページの11款1項のほうの農地農業施設の災害復旧事業、これ、朝のうちにどな

たか質問したかもしれませんね。510万円ほどあげておりますね。これはもう既に被災しているところの事業をこれからやろうとしているのか。ちょっともう1回だけお願いします。

次に66ページ、これは給与手当の欄です。ここに時間外手当を全会計分、ここ以外の分も後ろの分も合わせましたら、ことしも5,655万3,000円あるんですよ。これはそれでしたかたがないのかなとは思ったんですが、この会計別に職員1人当たりの時間外手当を計算してみました。一般会計のほうは年間22万9,000円ですね、1人当たり。残業していますね。それはいいとしても、一番少ないところは下水道で1人当たり5万円です。一番多いところは簡易水道で50万円ですよ、1人で。50万円も1人で職員手当のこの時間外手当が必要なのでしょうか。あまりにもばらつきが甚だしいものですから、この辺のところ、本当に必要なかどうかを私はお伺いしたかったんです。

それで、私、この時間外手当に関しまして、市長に1つお伺いしたいんです。この5,655万3,000円、これを職員給にかえますと、平均給与で計算しますと、1人当たりの年間の職員給与ですね、ボーナスを含めて537万円ぐらいですね。この5,655万3,000円を537万円で割りますと11人分の職員を採用できるんですよ。私は、そのほうがこの那須烏山市の人口増につながるのではないかと考えております。

先ほどの同僚議員の質問の中で、教育委員会のほうで支給しています奨学金、実際支給しても約半分ぐらいしか返ってこないと言っていますよね。雇用拡大にもつながりますし、私は決して職員数を減らすのがいいとは思っていません。この辺のところはどう考えているか、お伺いしたいと思います。

同じ69ページを見ますと、職員の昇給について載っております。これを見たところ、職員の昇給欄を見ますと、69ページは一般会計の分だけなんですけど、特別会計も全部含めると、職員242人中236人がことし昇給、昇格するとなっているわけなんです。今は何を基準に昇格、昇給させているのかであります。

これは3年ほど前、平成24年3月の定例会の一般質問の中で、昇任、昇格について、高根沢町では既にこういった試験を実施して、その点数でもって昇格、昇任を決めていると。だから、ぜひ本市でもそのような方法をとってはいかがですかと、そう質問しました。それに対しての市長答弁では、各職員のやる気を促すには有効な手段と考えているので、本市もぜひそのような方法を構築してまいりたいと言っていますが、多分これ、いまだにやっていないと思います。

さらに、平成25年の12月の定例会一般質問の中でも、私はこう言ったんですよ。市長の選挙があって間もなくですよ。市長はいっぱい選挙公約を掲げました。その公約実現のためには、職員が持つ能力を最大限引き出す必要があるのではないかと。さらに接遇改善を含めてい

かなる方法をお持ちでしょうか。そう私は質問しました。それに対して、市長答弁では、次年度からというのは平成26年度から、目標管理型人事評価制度を導入する予定であります、そう言っていました、いまだにやっていないですね。

一昨日の小堀議員のこのような質問に対しては、人事評価制度は平成27年度の下半期から試行的に取り入れ、平成28年度から本格実施したいと言っていますが、今度は本気なんですか。この辺のところも本気度を聞かせていただきたいと、そのような意味では私はこの質問項目を加えたわけであります。

今度は特別会計の下水道事業、201ページを開きますと、南那須地区、ここは加入率は最初からいいんですね、合併前から。88%からですね。どうもこの80%台から伸びないですね。なぜ伸びないのか、この理由についてお伺いをいたします。

次に、烏山地区も今回は1億6,200万円も工事費を投じますが、今年度工事区間の実施戸数というのは何戸なのか。それと、烏山全体のこの事業において水洗化率というのは何%ぐらいになるのか。これについてお伺いします。

それともう一つ、烏山地区の下水道の処理施設、広大な面積を持っていると聞いております。しかし、ほんのわずかししか今使っていないですね。その使っている面積はどのぐらいなのか。それと、総面積というのはどのぐらいあるのか。この辺についてお伺いをしたいと思います。

最後ですね、もう1点お伺いします。これは市長にお伺いしたいと思ったんですが、これは御承知のとおり、本市の自主財源率というのは33.7%ですね。これは県内の25市町村中最下位であります。私はことしは注目しまして、下野新聞に報道されます各市町村の予算規模について、円グラフや何かでありましたから、これを全部切り抜いてここに取り付けてあります。ただ2つぐらいの市の資料がちょっと不足したものですから、その辺のところは坂本課長から聞いたりしていたわけなんです。

これを見ますと、この自主財源率、最も高いのは芳賀町の71%ですね。すばらしいですね。続いて宇都宮市が64%。この近隣市町村の状況の中で注目したいところは、合併しなかった町の自主財源率というのが高いんですよ。塩谷町40%ですよ。うちのほうは34%ですよ。塩谷町40%、市貝町57%、高根沢町も61%です。軒並み自主財源率というのがずっと年々引き上がっているんですね。

これらのまちでは、将来を見据えて慎ましい財政運営に努めているのではないかと私は推測しているところなんです、この辺のところ、市長としてはどう判断するのでしょうか。本市では、合併特例債、それに合併交付金等、これらのいただけるものを全部使い果たしてしまったわけなんです、これで将来問題ないんでしょうか。将来、この自主財源率というのは上がるんでしょうか。非常にこのことを心配しております。

それに、先ほど言いました各市町村の当初予算から拾い出したんですが、市民1人当たりの予算の規模ですよ。これは12月の一般質問でしたか、同僚議員の中にもありました那須烏山市の1人当たりの予算規模は栃木県内で最大で、これは調べるべきではないかというような質問がありました。私もことしも全市町のそんなやつをここへ書き出して拾い出してみましたところ、本市の予算額、御承知のとおり11億6,000万円ですね、それを人口2万7,300人で割りましたところ、42万8,000円です。これはことしは県下第8位です。最下位から下から8番目に上がってきました。

3年前は先ほど言いましたように、第1位であったものが今回は第8位までに上がったんですよ。じゃあ、那須烏山市よりも予算額の多いところ、これはどういうところなのかと思って、内容を新聞記事から見ましたら、例えば那須町が一番多いんですが、これは除染費に33億円もかけているんですよ。だから、この予算が上がっています。隣の那珂川町も新庁舎とか消防庁舎の負担金がかしはぐーんと上がりました。だから、この予算規模が上がりました。日光市、下野市、大田原市、ここでも多額の庁舎建設費を計上したために、私のまちよりも1人当たりの予算額が上がったということで、これは一時的なものですから、今後は二、三年たてば、またまた那須烏山市の予算規模というのは県下で最大限に膨らんでしまうのではないかと、そう思っているわけです。

本市では、予算規模を縮小するような努力をされているのでしょうか。どうもその努力が見当たらないんですが、その辺のところはこれは財政担当の課長でも結構ですから、御答弁をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 大谷市長。

○市長（大谷範雄） それでは、私のほうからお答えをしたいと思います。

まず、給与手当、時間外手当から御質問がありました。5,600万円の残業は1人当たりになると11人分に当たるんじゃないかというような御指摘でございます。確かにこのような計算は成り立つ。そしてまた、雇用にもつながるということでございますが、この職員の資質、それとその数というのはバランスよく配置をする必要があるというふうに感じています。

したがって、この人数を増やすことで事務処理がさらに円滑に、その能力がいくかということと、さらに質的な資質を上げることによって、さらなる効率的な行政運営が図れるかということをやはりよく推しはかって、適正な人事配置をしていかなければならないと思います。

したがって、そういった数字から推しはかると、確かにそのようなことでございますが、それをさらに実現化をしたとしても、残業がゼロになるかどうかということもよく検証しなければならないと思います。

したがって、この職員の適正な配置というのは、質と量とそういったバランスをよく組み合わせながら検証作業をする必要があると思っておりますので、御提言でございますから、このことは真摯に受けとめて検討することにはいたしますが、やはり基本的な考え方はあくまでも職員の適正配置だと思っております。

それと、昇格、昇給ということになります。確かに議員から目標型の人事評価制度、平成25年度いただいて、平成26年度からやるよというようなことでもくろんでいたのは事実でございます。そのようなことで本気度と言われましたが、本気にそのようなことで担当課のほうには指示をしていたところでございますが、それが結果としては2年おくらせているというようなことございまして、このことについて本当におわびを申し上げたいと思います。

過日の小堀議員の一般質問でもお答えしたんですが、義務的になったということございしますので、今年度中には試行的なことをやりながら、平成28年度には本格施行ということは間違いなくやれると私も思っていますが、そのことについても、当初予算時には常々担当課には激励もしながら、叱咤もしながらやってきた事実はあるんですけども、結果としてこの成果が上がらなかったということございしますので、そのことについては私からもおわびをしたいと思います。平成28年度から本気にこの人事評価制度を取り入れながらやっていきたいと考えております。私はこのようなところでよろしいですかね。

自主財源比率についてお尋ねがございましたが、今期の自主財源比率が33%ということでありまして、合併する前の両町もおおむね30%、3割自治体ということで、そのまま推移しておりまして、結果としてこの辺のところに視点をあてますと、合併の効果はあったのかというようなことになると思うんですけども、それは置いておいて、自主財源比率の低迷というのは、先だってお示しをいたしました中長期財政計画でも、これからの10年間の財政計画を見ると、大体30%前後にとどまっています。

そのようなところから、あまりの伸びは期待はできないということございしますが、そう言っても地方創生の中で人口減少、少子高齢化対策は大きな課題だというふうに位置づけておりますので、そういった自主財源確保にはどうしても定住、企業誘致が欠かせないということで、心血を入れながらその戦略に向けてやっていきたいと思っておりますが、ただ、中長期財政計画で示した10カ年の計画については、この財源は伸びないということございしますが、一方、伸びなければやっぱり出づるを制するしかございませんので、今の116億円規模の当初予算規模を100億円程度に縮小するというような計画をお示ししているところでございます。したがって、今の現時点での市の標準財政規模は83億円程度でございますから、それを100億円程度に縮めまして、そういう中でこの市の一般会計の予算をあるべく姿にしていく、そういった努力をしていく。そういうことございしますので、ひとつ御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 坂本総合政策課長。

○総合政策課長（坂本正一） ただいまの質問の中で、皆さんにお配りさせていただきました当初予算の概要書の中に、一般会計だけでなく特別会計の内容も記載できないかというような御質問がございました。その件に関しましては、予算の概要の中の11ページから13ページにかけて、特別会計の御説明をさせていただいているところでございますが、この記載内容につきまして、もう少し詳しくというようなことでございますので、再度検討させていただきたいと思っております。

○議長（佐藤昇市） 雫環境課長。

○環境課長（雫 友二） グリーンニューディールの関係でお答えさせていただきます。

健康福祉センター、烏山中学校、下江川中学校、そちらのほうの平成25年度の使用料の実績、それと実際つけるソーラーパネルの出力の予想発電量から計算しますと、大体補えるのは保健福祉センターで5.17%、烏山中学校で5.06%、下江川中学校で4.31%となっております。

また、回収に何年ぐらいかかるのかという御質問でございますが、現在の使用料金から単価をはじいた計算ではございますが、それで計算いたしますと保健福祉センターは94.5年、烏山中学校が89.9年、下江川中学校が84.6年となっております。ただ、この件につきましては、蓄電池等も入っている、またLEDの街路灯なんかも入っているというふうなこと、災害時における電源確保を目的に整備されるものであるというふうなこと、その件については御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江農政課長。

○農政課長（堀江豊水） 私のほうから、まず45ページの人・農地の関係でございますが、加速化ということでありまして、内容的には今までありました個別所得補償の関係でございます。それから、そのうち100万円は市単独で流動化が図れたときに、借り手に10年間借りると1反歩5,000円というような金額の100万円も含まれていますが、それについて継続されるのかというお話でございますが、これは個別所得補償の関係でございますので、継続されていくというふうに認識しております。

次に46ページの景観形成モデルですが、小埦で大丈夫かという御質問でございますが、これは先ほどもお答えしましたが、地域とファームあらん、それから地元とお話ししまして、去年もちょっとやっていただいたんですが、畝上げをしまして排水を周りに張らせましてやれば、何とかなるだろうと。去年もそういうことでやっていただきました。

なおかつ、トンネル側と線路寄り、踏み切り寄り、西側は少しずらしてやると長い間咲いているんじゃないかというようなことをごさいます、これは再度やらせていただきたいというふうに考えています。

それから、46ページ、畜産担い手でごさいます。先ほどもお答えしましたが、矢板市、さくら市、高根沢町、那珂川町を入れまして11名の方で、本市におきましては4名の方が取り組むわけです。総体で11名いますが、平成30年までに9億3,000万円余の事業費でごさいます。いずれも（「これ、市も補助金を上乗せする必要があるのではないかということですからね」の声あり）はい、済みません。全て酪農後継者ですので、規約にのっとった範囲内でぜひ考えたいというふうに、これは財政当局とも事業費が確定次第、検討させていただきま

す。

それから、農地中間管理事業でごさいます。これは新たにできた国の4本柱の問題でごさいます。離農者等が借り手に貸した場合、貸し手ももらえる。70万円、50万円、30万円、そういう事業ですので、これも継続される予定でごさいます。

元気な森づくりにつきましては、これは都市建設課とタイアップしてできないかということでごさいます。おかげさまで補助率100%でごさいます。通学路とか交通の見通しの悪いところとか、ちょっと建設課では難しいなというところもとつきやすいものですから、これはうちのほうでできる範囲で、ただ、ちょっとやりたくないのに地域に入っちゃっているというふうなお話もありましたが、確かに10年間は他の目的に転用できないという縛りがごさいます。そういうこともあります。周辺整備ということで交通安全にもつながりますので、続けさせていただきたいと思

います。

それから、最後の災害復旧ですが、道路、農道等が200万円、農業用施設ということで田んぼとか畑が崩れた場合300万円、その中で継続しているのがあるのかということですが、小木須地区で去年災害を受けたところで、雨量の関係で該当していないんですね。国とか県ですね。それを市単独でみたいということ104万円ほど、300万円の中に104万円含まれてお

まして、トータルで501万1,000円という計上になってごさいます。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 堀江商工観光課長。

○商工観光課長（堀江功一） 私のほうから4点ほど説明申し上げます。

48ページからになります。まず第1点に、工場敷地崩壊復旧工事費でごさいます。この300万円限度額で予算をとってありますが、どのような規模ということですが、今のところ、私どもで見たところ、1,000万円から2,000万円の工事費になる予測のもと、予算を計上したところでごさいます。

続きまして49ページのプロジェクトンマッピングの事業費交付金ですが、今年度は前にも説明しましたように、この事業を行います。そして、今年度は10周年記念事業としても実施し、今後についてはまだ実行委員会、スタッフの意見がこの意見ですので、その中で協議していきたい。先ほど言いましたように、イルミネーションの道具類は大分古くなっていますが、保存していますので使えますので、またそれも一緒に協議していきたいと思っております。

次に、50ページになりますか、一般観光施設運営費ということでございますが、49ページから50ページにかけてのものですが、今回は953万円ということで、昨年に対して571万5,000円が交付になっております。このうちこの予算は基本的に那須烏山市内にあります公園、大沢とか愛宕台、花立峠、富士見台、宮原等の公園とか広場、それと山あげ烏章館の施設の電気、水道料などとか草刈りなどの維持管理費になっておりますが、それに今回は新事業で工事一覧表にもありますように、観光イベント、資材倉庫を新築工事費486万円が入っておりますので、そのような事業で行っております。

4点目の山あげ会館については、どのようにということで、整備については先ほど説明がございましたが、それをもとに今後、関係団体とハード面、そして運用、展示施設をどのように進めていくかというのは、検討しながら進めていきたいと思っております。

なお、入り口の販売関係で、おみやげ等パン屋がありますから、入り口が2つになってしまいますので、そのパン屋さん観光のほうを別に入り口をつくって、入りやすいようにしたいなという計画を持っております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 大谷上下水道課長。

○上下水道課長（大谷頼正） それでは、下水道関係の質問に対してお答えしたいと思います。

まずは1つ目の南那須地区の加入率が88%から伸びない理由ということですが、平成25年度末の普及率は87.8%で、平成26年度が88%ということで、件数にすると4戸増えております。微妙ですけれども、わずかながらは伸びている状態です。

その理由なんですけど、平成4年から事業に着手して10年度からは供用開始しておりますが、事業実施中、下水道整備区域の中で、家の新築や改築等がありまして、下水道が入るのを待たなくて浄化槽を整備した家があります。また、現在の景気の低迷や高齢化の進展などによりまして、そのような要因で伸びないのではないかと思います。おおむね88%でございますので、ほとんどのうちが入っております。

続きまして、2問目の烏山地区の今年度工事区域の受益戸数ですけれども、今回の工事区域の戸数が84戸となっております。そのうち今回、公共ますの設置の申し込みがありましたの

は45戸ということで、約54%の公共ますの設置を予定しております。

それと烏山全体の下水道の水洗化率の見込みですけれども、これにつきましては平成26年度の下水道の加入が23戸ありまして、人口にして80.5人程度でありますので、全体としては33.2%になる予定でございます。

それと、烏山水処理センターの敷地の件でございます。総敷地面積は3万9,231平方メートルです。そのうち使用面積は1万8,147平方メートルということで、未利用地は2万1,084平方メートルになっております。

以上です。

○議長（佐藤昇市） 佐藤生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐藤新一） 改善センター裏空き地の舗装関係でございます。こちらのほうは大変申しわけございませんが、文教福祉常任委員会のほうで回答させていただくことでよろしいでしょうか。

○議長（佐藤昇市） 15番中山五男議員。

○15番（中山五男） 一通り答弁はいただきました。まず、二、三だけ申し上げたい。

例の太陽光発電ですね、先ほど聞きましたら、元を取るのに100年近くもかかるんですね。こういう事業をですね、今回も7,800万円も投資していいのかどうかということですね。ちょっと私は疑問を持っております。ぜひやりたいんだということなら、それはね。こういうことは率先してやるべきではないなと私は思っております。

それと、市長から何点か答弁いただきました。市長の心は十分私も承知をしております。ぜひ人事評価制度、平成28年度から実施するということですが、困難があるでしょうが、ぜひそのような方向で期待をしておりますので、お願いします。

自主財源比率ですが、これも先ほど言いましたように、この合併しなかった市町村というのは上がっているんですね。そこら辺のところ十分、これは財政担当課長、なぜ予算規模が膨れてしまったのかを、よそのそういった高根沢町または矢板市あたりの予算書を借りてきて検討していただきたい。十分内容を分析いただきたいと強く私はこれを望んでおります。

それと、烏山地区の水処理センターですね、まだまだ2万1,000平方メートル、半分ぐらいは余っているわけなんですけど、今後どうするのか。利用できるのかどうか。もしできないならどのように考えているのか。これが1点。

それと、南那須地区はまだ12%残っているわけですね。今、烏山地区は1戸あたりどのぐらいの工事費がかかっているか。私、わかりません。合併前に旧南那須は全部済みましたよね。総事業費をその区域の受益戸数で割りましたら、ちょっと私も今、記憶の範囲内なんですけど、約700万円かかっているんですね、1戸当たりですよ。それほど多額の費用を投資してい

るわけなんですから、もうこのぐらい88%、旧南那須でも入っているんだから、やむなしというようなそんな言い方ではなく、ぜひ1戸でも2戸でも努力していただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

○議長（佐藤昇市） 大谷上下水道課長。

○上下水道課長（大谷頼正） まず、烏山水処理センターの跡地利用の関係なんですけれども、まだ利用につきましては未定でございますが、考えられることとしましては、災害時の簡易沈殿池への利用とか、そういうものも考えられます。それ以外のものにつきましてはまだ未定でございます。

また、烏山地区も南那須地区もそうですけれども、水洗化率の向上につきましては、今後鋭意努力していきたいと思っております。

以上です。

○15番（中山五男） 了解しました。

○議長（佐藤昇市） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（佐藤昇市） 質疑がないようですので、議長において議事を進行し、これで質疑を打ち切ることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（佐藤昇市） 異議なしと認めます。

よって、これで質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま上程中の議案第1号から議案第9号までの平成27年度那須烏山市一般会計予算・特別会計予算・水道事業会計予算については、各常任委員会に付託したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（佐藤昇市） 異議なしと認めます。

よって、議案第1号から議案第9号までの9議案を、それぞれ所管の常任委員会に付託することに決定いたしました。

○議長（佐藤昇市） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

次の本会議は3月19日午前10時から開きます。

本日はこれで散会します。大変御苦労さまでした。

〔午後 4時54分散会〕